

国家公務員共済組合連合会浜の町病院内科専門研修プログラム

1. 理念・使命・特性

理念【整備基準 1】

- 1) 本プログラムは、福岡県福岡・糸島医療圏の中心的な急性期病院である国家公務員共済組合連合会浜の町病院（以下 浜の町病院）を基幹施設として、福岡県福岡・糸島医療圏・近隣医療圏にある連携施設、特別連携施設とで内科専門研修を経て福岡県、九州、山口、松山の医療事情を理解し、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練され、基本的臨床能力獲得後は必要に応じた可塑性のある内科専門医として福岡県全域を支える内科専門医の育成を行います。
- 2) 初期臨床研修を修了した内科専攻医は、本プログラム専門研修施設群での 3 年間（基幹施設 1 年間＋連携 2 年間）に、豊富な臨床経験を持つ指導医の適切な指導の下で、内科専門医制度研修カリキュラムに定められた内科領域全般にわたる研修を通じて、標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能とを修得します。

内科領域全般の診療能力とは、臓器別の内科系 Subspecialty 分野の専門医にも共通して求められる基礎的な診療能力です。また、知識や技能に偏らずに、患者に人間性をもって接すると同時に、医師としてのプロフェッショナリズムとリサーチマインドの素養をも修得して可塑性が高く様々な環境下で全人的な内科医療を実践する先導者の持つ能力です。内科の専門研修では、幅広い疾患群を順次、経験してゆくことによって、内科の基礎的診療を繰り返して学ぶとともに、疾患や病態に特異的な診療技術や患者の抱える多様な背景に配慮する経験とが加わることに特徴があります。そして、これらの経験を単に記録するのではなく、病歴要約として、科学的根拠や自己省察を含めて記載し、複数の指導医による指導を受けることによってリサーチマインドを備えつつも全人的医療を実践する能力を涵養することを可能とします。

使命【整備基準 2】

- 1) 福岡県福岡・糸島医療圏に限定せず、超高齢社会を迎えた日本を支える内科専門医として、1) 高い倫理観を持ち、2) 最新の標準的医療を実践し、3) 安全な医療を心がけ、4) プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を提供し、臓器別専門性に著しく偏ることなく全人的な内科診療を提供すると同時にチーム医療を円滑に運営できる研修を行います。
- 2) 本プログラムを修了し内科専門医の認定を受けた後も、内科専門医は常に自己研鑽を続け、最新の情報を学び、新しい技術を修得し、標準的な医療を安全に提供し、疾病の予防、早期発見、早期治療に努め、自らの診療能力をより高めることを通じて内科医療全体の水準をも高めて、地域住民、日本国民を生涯にわたって最善の医療を提供してサポートできる研修を行います。
- 3) 疾病の予防から治療に至る保健・医療活動を通じて地域住民の健康に積極的に貢献できる研修を行います。
- 4) 将来の医療の発展のためにリサーチマインドを持ち臨床研究、基礎研究を実際に行う契機となる研修を行います。

特性

- 1) 本プログラムは、福岡県福岡・糸島医療圏の中心的な急性期病院である浜の町病院を基幹施設として、福岡県福岡・糸島医療圏、近隣医療圏および宮崎、大分、山口、松山にある連携施設とで内科専門研修を経て超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し、必要に応じた可塑性のある、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練されます。研修期間は基幹施設 1 年間＋連携施設 2 年間の合計 3 年間になります。
- 2) 浜の町病院内科施設群専門研修では、症例をある時点で経験するというだけでなく、主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。そして、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標への到達とします。
- 3) 基幹施設である浜の町病院は、福岡県福岡・糸島医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核であります。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディジーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。
- 4) 基幹施設である浜の町病院と連携施設研修の 2 年間（専攻医 2 年修了時）で、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群のうち、少なくとも通算で 45 疾患群、80 症例以上を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システムに登録できます。そして、専攻医 2 年修了時点で、指導医による形成的な指導を通じて、内科専門医ボードによる評価に合格できる 29 症例の病歴要約を作成できます（P. 88 別表 1「内科専門研修修了要件（「症例数」、「疾患群」、「病歴要約」）一覧表」参照）。
- 5) 浜の町病院内科研修施設群の各医療機関が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するために、専門研修 1～3 年目のうちの 2 年間、立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことによって、内科専門医に求められる役割を実践します。
- 6) 基幹施設である浜の町病院での 1 年間と専門研修施設群での 2 年間（専攻医 3 年修了時）で、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群のうち、少なくとも通算で 56 疾患群、120 症例以上を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システムに登録できます。可能な限り、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群、200 症例以上の経験を目標とします（P. 88 別表 1「内科専門研修修了要件（「症例数」、「疾患群」、「病歴要約」参照）。

専門研修後の成果【整備基準 3】

内科専門医の使命は、1) 高い倫理観を持ち、2) 最新の標準的医療を実践し、3) 安全な医療を心がけ、4) プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を展開することです。内科専門医のかかわる場は多岐にわたるが、それぞれの場に応じて、

- 1) 地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）
- 2) 内科系救急医療の専門医
- 3) 病院での総合内科（Generality）の専門医
- 4) 総合内科的視点を持った Subspecialist

に合致した役割を果たし、地域住民、国民の信頼を獲得します。それぞれのキャリア形成やライフステージ、あるいは医療環境によって、求められる内科専門医像は単一でなく、その環境に応じて役割を果たすことができる、必要に応じた可塑性のある幅広い内科専門医を多く輩出することにあります。

浜の町病院内科専門研修施設群での研修終了後はその成果として、内科医としてのプロフェッショナルリズムの涵養と General なマインドを持ち、それぞれのキャリア形成やライフステージによって、これらいずれかの形態に合致することもあれば、同時に兼ねることも可能な人材を育成します。そして、福岡県福岡・糸島医療圏に限定せず、超高齢社会を迎えた日本のいずれの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を獲得していることを要します。また、希望者は Subspecialty 領域専門医の研修や高度・先進的医療、大学院などでの研究を開始する準備を整えうる経験をできることも、本施設群での研修が果たすべき成果です。

2. 募集専攻医数【整備基準 27】

下記 1)～7)により、浜の町病院内科専門研修プログラムで募集可能な内科専攻医数は 1 学年 4 名とします。

- 1) 浜の町病院内科後期研修医は現在 3 学年併せて 11 名で 1 学年 3～5 名の実績があります。
- 2) 国家公務員共済組合連合会管轄病院として雇用人員数に一定の制限があるので、募集定員の大幅増は現実性に乏しいです。
- 3) 剖検体数は 2022 年度 6 件、2023 年度 5 件、2024 年度 1 件です。

表. 浜の町病院診療科別診療実績

2024 年実績	入院患者実数 (人/年)	延患者数 (延人数/年)
消化器・肝胆膵内科	950	7,859
循環器内科	441	4,653
内分泌代謝内科	217	2,579
腎臓内科	146	2,355
呼吸器内科	706	9,904
神経内科	217	3,994
血液内科	957	21,792
リウマチ膠原病内科	249	3,258
腫瘍内科	1,311	9,237

救急科	582	810
総診・感染症内科	295	5,926

- 4) 各領域に十分な症例数があります。内分泌疾患の入院患者は少なめですが外来患者診療を含め、1 学年 4 名に対し十分な症例を経験可能です。
- 5) 13 領域の専門医が少なくとも 1 名以上在籍しています（P. 17「浜の町病院内科専門研修施設群」参照）。
- 6) 1 学年 4 名までの専攻医であれば、専攻医 2 年修了時に「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 45 疾患群、80 症例以上の診療経験と 20 病歴要約の作成は達成可能です。
- 7) 専攻医 3 年間に研修する連携施設には、高次機能・専門病院 14 施設、地域基幹病院 13 施設および地域医療密着型病院 8 施設、計 35 施設あり、専攻医のさまざまな希望・将来像に対応可能です。
- 8) 専攻医 3 年修了時に「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた少なくとも 56 疾患群、120 症例以上の診療経験は達成可能です。

3. 専門知識・専門技能とは

- 1) 専門知識【整備基準 4】〔「内科研修カリキュラム項目表」参照〕
専門知識の範囲（分野）は、「総合内科」、「消化器」、「循環器」、「内分泌」、「代謝」、「腎臓」、「呼吸器」、「血液」、「神経」、「アレルギー」、「膠原病および類縁疾患」、「感染症」、ならびに「救急」で構成されます。
「内科研修カリキュラム項目表」に記載されている、これらの分野における「解剖と機能」、「病態生理」、「身体診察」、「専門的検査」、「治療」、「疾患」などを目標（到達レベル）とします。
- 2) 専門技能【整備基準 5】〔「技術・技能評価手帳」参照〕
内科領域の「技能」は、幅広い疾患を網羅した知識と経験とに裏付けをされた、医療面接、身体診察、検査結果の解釈、ならびに科学的根拠に基づいた幅の広い診断・治療方針決定を指します。さらに全人的に患者・家族と関わってゆくことや他の Subspecialty 専門医へのコンサルテーション能力とが加わります。これらは、特定の手技の修得や経験数によって表現することはできません。

4. 専門知識・専門技能の習得計画

- 1) 到達目標【整備基準 8～10】（P. 88 別表 1「内科専門研修修了要件（「症例数」、「疾患群」、「病歴要約」参照）主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し、200 症例以上経験することを目標とします。内科領域研修を幅広く行うため、内科領域内のどの疾患を受け持つかについては多様性があります。そこで、専門研修（専攻医）年限ごとに内科専門医に求められる知識・技能・態度の修練プロセスは以下のように設定します。

○専門研修（専攻医）1 年：

- ・症例：「研修手帳（疾患群項目表）」に定める 70 疾患群のうち、少なくとも 20 疾患群、40 症例以上を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)にその研修内容を登録します。以下、全ての専攻医の登録状況については担当指導医の評価と承認が行われます。
- ・専門研修修了に必要な病歴要約を 10 症例以上記載して日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録します。
- ・技能：研修中の疾患群について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を指導医、Subspecialty 上級医とともに行うことができます。
- ・態度：専攻医自身の自己評価と指導医、Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価とを複数回行って態度の評価を行い担当指導医がフィードバックを行います。

○専門研修（専攻医） 2 年：

- ・症例：「研修手帳（疾患群項目表）」に定める 70 疾患群のうち、通算で少なくとも 45 疾患群、80 症例以上の経験をし、日本内科学会専攻医登録評価システムにその研修内容を登録します。
- ・専門研修修了に必要な病歴要約をすべて記載して日本内科学会専攻医登録評価システムへの登録を終了します。
- ・技能：研修中の疾患群について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を指導医、Subspecialty 上級医の監督下で行うことができます。
- ・態度：専攻医自身の自己評価と指導医、Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価を複数回行って態度の評価を行います。専門研修（専攻医）1 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします。

○専門研修（専攻医） 3 年：

- ・症例：主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し、200 症例以上経験することを目標とします。修了認定には、主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 120 症例（2023 年度以前登録専攻医は計 160 症例）以上（外来症例は 1 割まで含むことができます）を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システムにその研修内容を登録します。
- ・専攻医として適切な経験と知識の修得ができることを指導医が確認します。
- ・既に専門研修 2 年次までに登録を終えた病歴要約は、日本内科学会病歴要約評価ボードによる査読を受けます。査読者の評価を受け、形成的により良いものへ改訂します。但し、改訂に値しない内容の場合は、その年度の受理（アクセプト）を一切認められないことに留意します。
- ・技能：内科領域全般について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を自立して行うことができます。
- ・態度：専攻医自身の自己評価と指導医、Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価とを複数回行って態度の評価を行います。専門研修（専攻医）2 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします。また、内科専門医としてふさわしい態度、プロフェッショナリズム、自己学習能力を修得しているか否かを指導医が専攻医と面談し、さらなる改善を図ります。

専門研修修了には、すべての病歴要約 29 症例の受理と、少なくとも 70 疾患群中の 56 疾患群以上で計 120 症例（2023 年度以前登録専攻医は計 160 症例）以上の経験を必要とします。日本内科学会専攻医登録評価システムにおける研修ログへの登録と指導医の評価と承認とによって目標を達成します。

浜の町病院内科施設群専門研修では、「研修カリキュラム項目表」の知識、技術・技能修得は必要不可欠なものであり、修得するまでの最短期間は 3 年間（基幹施設 1 年間＋連携施設 2 年間）とするが、修得が不十分な場合、修得できるまで研修期間を 1 年単位で延長します。一方でカリキュラムの知識、技術・技能を修得したと認められた専攻医には積極的に Subspecialty 領域専門医取得に向けた知識、技術・技能研修を開始させます。

2) 臨床現場での学習【整備基準 13】内科領域の専門知識は、広範な分野を横断的に研修し、各種の疾患経験とその省察とによって獲得されます。内科領域を 70 疾患群（経験すべき病態等を含む）に分類し、それぞれに提示されているいずれかの疾患を順次経験します（下記①～⑥参照）。この過程によって専門医に必要な知識、技術・技能を修得します。代表的なものについては病歴要約や症例報告として記載します。また、自らが経験することのできなかつた症例については、カンファレンスや自己学習によって知識を補足します。これらを通じて、遭遇する事が稀な疾患であっても類縁疾患の経験と自己学習によって適切な診療を行えるようにします。

- ① 内科専攻医は、担当指導医もしくは Subspecialty の上級医の指導の下、主担当医として入院症例と外来症例の診療を通じて、内科専門医を目指して常に研鑽します。主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。
- ② 定期的（毎週 1 回）に開催する各診療科あるいは内科合同カンファレンスを通じて、担当症例の病態や診断過程の理解を深め、多面的な見方や最新の情報を得ます。また、プレゼンターとして情報検索およびコミュニケーション能力を高めます。
- ③ 総合内科外来（初診を含む）と Subspecialty 診療科外来（初診を含む）を少なくとも週 1 回、1 年以上担当医として経験を積みます。
- ④ 救命救急センターの内科外来で内科領域の救急診療の経験を積みます。
- ⑤ 当直医として病棟急変などの経験を積みます。
- ⑥ 要に応じて、Subspecialty 診療科検査を担当します。

3) 臨床現場を離れた学習【整備基準 14】

1) 内科領域の救急対応、2) 最新のエビデンスや病態理解・治療法の理解、3) 標準的な医療安全や感染対策に関する事項、4) 医療倫理、医療安全、感染防御、臨床研究や利益相反に関する事項、5) 専攻医の指導・評価方法に関する事項、などについて、以下の方法で研鑽します。

- ① 定期的（毎週 1 回程度）に開催する各診療科での抄読会
- ② 医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習会（基幹施設 2024 年度実績 6 回）
※ 内科専攻医は年に 6 回以上受講します。
- ③ CPC（基幹施設 2024 年度実績 3 回）

- ④ 地域参加型のカンファレンス（福岡地域救急医療合同カンファレンス，福岡市内科医会，福岡市中央区内科医会，福岡市中央区消化器病症例検討会など）
- ⑤ JMECC 受講（基幹施設：2024 年度開催 2 回）
※ 内科専攻医は必ず専門研修終了までに 1 回受講します。
- ⑥ 内科系学術集会（下記「7. 学術活動に関する研修計画」参照）
- ⑦ 各種指導医講習会/JMECC 指導者講習会 など
- 4) 自己学習【整備基準 15】

「研修カリキュラム項目表」では，知識に関する到達レベルを A（病態の理解と合わせて十分に深く知っている）と B（概念を理解し，意味を説明できる）に分類，技術・技能に関する到達レベルを A（複数回の経験を経て，安全に実施できる，または判定できる），B（経験は少数例ですが，指導者の立ち会いのもとで安全に実施できる，または判定できる），C（経験はないが，自己学習で内容と判断根拠を理解できる）に分類，さらに，症例に関する到達レベルを A（主担当医として自ら経験した），B（間接的に経験している（実症例をチームとして経験した，または症例検討会を通して経験した），C（レクチャー，セミナー，学会が公認するセルフスタディやコンピューターシミュレーションで学習した）と分類しています。（「研修カリキュラム項目表」参照）自身の経験がなくても自己学習すべき項目については，以下の方法で学習します。

- ① 内科系学会が行っているセミナーの DVD やオンデマンドの配信
- ② 日本内科学会雑誌にある MCQ
- ③ 日本内科学会が実施しているセルフトレーニング問題
など

5) 研修実績および評価を記録し，蓄積するシステム【整備基準 41】

日本内科学会専攻医登録評価システムを用いて，以下を web ベースで日時を含めて記録します。

- ・専攻医は全 70 疾患群の経験と 200 症例以上を主担当医として経験することを目標に，通算で最低 56 疾患群以上 120 症例（2023 年度以前登録専攻医は計 160 症例）の研修内容を登録します。指導医はその内容を評価し，合格基準に達したと判断した場合に承認を行います。
- ・専攻医による逆評価を入力して記録します。
- ・全 29 症例の病歴要約を指導医が校閲後に登録し，専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約評価ボードによるピアレビューを受け，指摘事項に基づいた改訂を受理（アクセプト）されるまでシステム上で行います。
- ・専攻医は学会発表や論文発表の記録をシステムに登録します。
- ・専攻医は各専門研修プログラムで出席を求められる講習会等（例：CPC，地域連携カンファレンス，医療倫理・医療安全・感染対策講習会）の出席をシステム上に登録します。

5. プログラム全体と各施設におけるカンファレンス【整備基準 13, 14】

浜の町病院内科専門研修施設群でのカンファレンスの概要は，施設ごとに実績を記載した（P. 17「浜の町病院内科専門研修施設群」参照）。プログラム全体と各施設のカンファ

レンスについては、基幹施設である浜の町病院臨床研修センターが把握し、定期的に E-mail など専攻医に周知し、出席を促します。

6. リサーチマインドの養成計画【整備基準 6, 12, 30】

内科専攻医に求められる姿勢とは単に症例を経験することにとどまらず、これらを自ら深めてゆく姿勢です。この能力は自己研鑽を生涯にわたってゆく際に不可欠となります。

浜の町病院内科専門研修施設群は基幹施設、連携施設のいずれにおいても、

- ① 患者から学ぶという姿勢を基本とする。
- ② 科学的な根拠に基づいた診断、治療を行う (EBM; evidence based medicine)。
- ③ 最新の知識、技能を常にアップデートする (生涯学習)。
- ④ 診断や治療の evidence の構築・病態の理解につながる研究を行う。
- ⑤ 症例報告を通じて深い洞察力を磨く。

といった基本的なリサーチマインドおよび学問的姿勢を涵養します。併せて、

- ① 初期研修医あるいは医学部学生の指導を行う。
- ② 後輩専攻医の指導を行う。
- ③ メディカルスタッフを尊重し、指導を行う。

などを通じて、内科専攻医としての教育活動を行います。

7. 学術活動に関する研修計画【整備基準 12】

浜の町病院内科専門研修施設群は基幹病院、連携病院のいずれにおいても、

- ① 内科系の学術集会や企画に年 2 回以上参加します (必須)。
※日本内科学会本部または支部主催の生涯教育講演会、年次講演会、CPC および内科系 Subspecialty 学会の学術講演会・講習会を推奨します。
- ② 経験症例についての文献検索を行い、症例報告を行います。
- ③ 臨床的疑問を抽出して臨床研究を行います。
- ④ 内科学に通じる基礎研究を行います。

これらを通じて、科学的根拠に基づいた思考を全人的に活かせるようにします。

内科専攻医は学会発表あるいは論文発表は筆頭者 2 件以上行います。

なお、専攻医が、社会人大学院などを希望する場合でも、浜の町病院内科専門研修プログラムの修了認定基準を満たせるようにバランスを持った研修を推奨します。

8. コア・コンピテンシーの研修計画【整備基準 7】

「コンピテンシー」とは観察可能な能力で、知識、技能、態度が複合された能力です。これは観察可能であることから、その習得を測定し、評価することが可能です。その中で共通・中核となる、コア・コンピテンシーは倫理観・社会性です。

浜の町病院内科専門研修施設群は基幹施設、連携施設のいずれにおいても指導医、Subspecialty 上級医とともに下記①～⑩について積極的に研鑽する機会を与えます。プログラム全体と各施設のカンファレンスについては、基幹施設である浜の町病院臨床研修センター (仮称) が把握し、定期的に E-mail など専攻医に周知し、出席を促します。

内科専門医として高い倫理観と社会性を獲得します。

- ① 患者とのコミュニケーション能力
- ② 患者中心の医療の実践
- ③ 患者から学ぶ姿勢
- ④ 自己省察の姿勢
- ⑤ 医の倫理への配慮
- ⑥ 医療安全への配慮
- ⑦ 公益に資する医師としての責務に対する自律性（プロフェッショナリズム）
- ⑧ 地域医療保健活動への参画
- ⑨ 他職種を含めた医療関係者とのコミュニケーション能力
- ⑩ 後輩医師への指導

※ 教える事が学ぶ事につながる経験を通し、先輩からだけではなく後輩、医療関係者からも常に学ぶ姿勢を身につけます。

9. 地域医療における施設群の役割【整備基準 11, 28】

内科領域では、多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須です。浜の町病院内科専門研修施設群研修施設は福岡県福岡・糸島医療圏、近隣医療圏および北部九州の医療機関から構成されています。

浜の町病院は、福岡県福岡・糸島医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核です。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます。

連携施設には、内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し、地域医療や全人的医療を組み合わせ、急性期医療、慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に、高次機能・専門病院である九州大学病院、九州大学別府病院、小倉医療センター、製鉄記念八幡病院、九州がんセンター、福岡赤十字病院、済生会福岡総合病院、JCHO 九州病院、北九州市立医療センター、聖マリア病院、九州中央病院、福岡東医療センター、九州医療センター、飯塚病院、地域基幹病院である唐津赤十字病院、山口赤十字病院、原三信病院、福岡山王病院、福岡市民病院、松山赤十字病院、下関市立市民病院、大分県立病院、宮崎県立宮崎病院、門司掖済会病院、別府医療センター、九州労災病院、福岡和白病院および地域医療密着型病院である福岡病院、白十字病院、千早病院、仲原病院、大牟田病院、特別連携施設の西福岡病院、福岡ゆたか中央病院、前田病院で構成しています。

高次機能・専門病院では、高度な急性期医療、より専門的な内科診療、希少疾患を中心とした診療経験を研修し、臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につけます。地域基幹病院では、浜の町病院と異なる環境で、地域の第一線における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験をより深く研修します。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を積み重ねます。

地域医療密着型病院では、地域に根ざした医療、地域包括ケア、在宅医療などを中心とした診療経験を研修します。

浜の町病院内科専門研修施設群(P. 17)は、福岡県福岡・糸島医療圏，近隣医療圏および九州、山口、松山、大分の医療機関から構成しています。最も距離が離れている宮崎県立宮崎病院、松山赤十字病院であり、浜の町病院から飛行機を利用して、1 時間 30 分程度の移動時間がありますが、専攻医と指導医のミーティングは研修状況を考慮して勘案し、電話やメールなどを用いて専攻医が指導医に相談しやすい状況を維持できるよう努めますので、連携に支障をきたす可能性は低いです。

10. 地域医療に関する研修計画【整備基準 28, 29】

浜の町病院内科施設群専門研修では、症例をある時点で経験するというだけでなく、主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践し、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得を目標としています。

浜の町病院内科施設群専門研修では、主担当医として診療・経験する患者を通じて、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。

11. 内科専攻医研修（モデル）【整備基準 16】

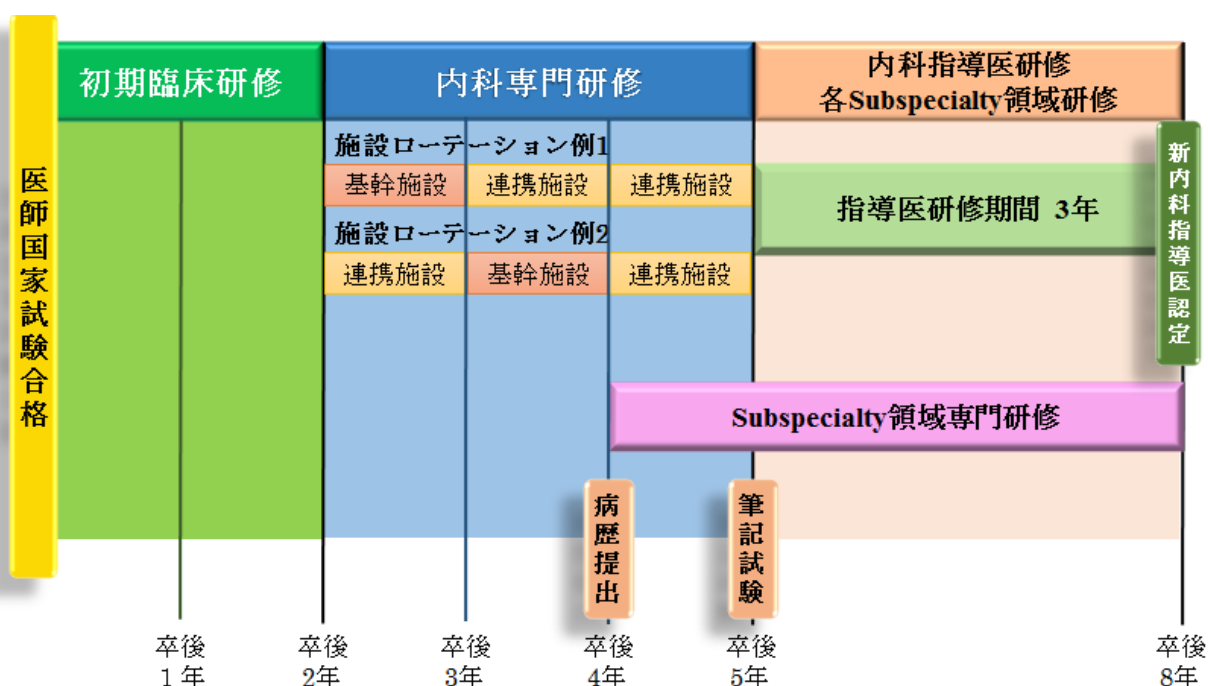


図1：浜の町病院内科専門研修プログラム（概念図）

基幹施設である浜の町病院内科で、専門研修（専攻医）1年目または2年目に1年間の専門研修を行います。

専攻医 2年目の秋に専攻医の希望・将来像、研修達成度およびメディカルスタッフによる360度評価（内科専門研修評価）などを基に、専門研修（専攻医）3年目の研修施設を調整し決定します。病歴提出を終える専門研修（専攻医）3年目の1年間は連携施設で研修をします（図1）。なお、研修達成度によってはSubspecialty研修も可能です（個々人により異なります）。

12. 専攻医の評価時期と方法【整備基準 17, 19～22】

(1) 浜の町病院臨床研修センターの役割

・浜の町病院内科専門研修管理委員会の事務局を行います。

- ・浜の町病院内科専門研修プログラム開始時に、各専攻医が初期研修期間などで経験した疾患について日本内科学会専攻医登録評価システムの研修手帳 Web 版を基にカテゴリー別の充足状況を確認します。
- ・3 か月ごとに研修手帳 Web 版にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し、専攻医による研修手帳 Web 版への記入を促します。また、各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
- ・6 か月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡し、専攻医による病歴要約の作成を促します。また、各カテゴリー内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
- ・6 か月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します。
- ・年に複数回（8 月と 2 月、必要に応じて臨時に）、専攻医自身の自己評価を行います。その結果は日本内科学会専攻医登録評価システムを通じて集計され、1 か月以内に担当指導医によって専攻医に形成的にフィードバックを行って、改善を促します。
- ・臨床研修センターは、メディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）を毎年複数回（8 月と 2 月、必要に応じて臨時に）行います。担当指導医、Subspecialty 上級医に加えて、看護師長、看護師、臨床検査・放射線技師・臨床工学技士、事務員などから、接点の多い職員 5 人を指名し、評価します。評価表では社会人としての適性、医師としての適性、コミュニケーション、チーム医療の一員としての適性を多職種が評価します。評価は無記名方式で、統括責任者が各研修施設の研修委員会に委託して 5 名以上の複数職種に回答を依頼し、その回答は担当指導医が取りまとめ、日本内科学会専攻医登録評価システムに登録します（他職種はシステムにアクセスしません）。その結果は日本内科学会専攻医登録評価システムを通じて集計され、担当指導医から形成的にフィードバックを行います。
- ・日本専門医機構内科領域研修委員会によるサイトビジット（施設実地調査）に対応します。

(2) 専攻医と担当指導医の役割

- ・専攻医 1 人に 1 人の担当指導医が浜の町病院内科専門研修プログラム委員会により決定されます。
- ・専攻医は web にて日本内科学会専攻医登録評価システムにその研修内容を登録し、担当指導医はその履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認をします。この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います。
- ・専攻医は、1 年目専門研修終了時に研修カリキュラムに定める 70 疾患群のうち 20 疾患群、40 症例以上の経験と登録を行うようにします。2 年目専門研修終了時に 70 疾患群のうち 45 疾患群、80 症例以上の経験と登録を行うようにします。3 年目専門研修終了時には 70 疾患群のうち 56 疾患群、120 症例以上の経験の登録を修了します。それぞれの年次で登録された内容は都度、担当指導医が評価・承認します。
- ・担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り、研修手帳 Web 版での専攻医による症例登録の評価や臨床研修センターからの報告などにより研修の進捗状況を把握します。専攻医は Subspecialty の上級医と面談し、専攻医が経験すべき症例について報告・相談します。担当指導医と Subspecialty の上級医は、専攻医が充足していない

カテゴリー内の疾患を可能な範囲で経験できるよう、主担当医の割り振りを調整します。

- ・担当指導医は Subspecialty 上級医と協議し、知識、技能の評価を行います。
- ・専攻医は、専門研修（専攻医）2 年修了時まで 20 症例の病歴要約を順次作成し、日本内科学会専攻医登録評価システムに登録します。担当指導医は専攻医が合計 29 症例の病歴要約を作成することを促進し、内科専門医ボードによる査読・評価で受理（アクセプト）されるように病歴要約について確認し、形成的な指導を行う必要があります。専攻医は、内科専門医ボードのピアレビュー方式の査読・形成的評価に基づき、専門研修（専攻医）3 年次修了までにすべての病歴要約が受理（アクセプト）されるように改訂します。これによって病歴記載能力を形成的に深化させます。

(3) 評価の責任者年度ごとに担当指導医が評価を行い、基幹施設あるいは連携施設の内科研修委員会で検討します。その結果を年度ごとに浜の町病院内科専門研修管理委員会で検討し、統括責任者が承認します。

(4) 修了判定基準【整備基準 53】

1) 担当指導医は、日本内科学会専攻医登録評価システムを用いて研修内容の評価し、以下 i)～vi) の修了を確認します。

i) 主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し、計 200 症例以上（外来症例は 12 症例まで含むことができます）を経験することを目標とします。その研修内容を日本内科学会専攻医登録評価システムに登録します。修了認定には、主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 120 症例（2023 年度以前登録専攻医は計 160 症例）以上の症例（外来症例は登録症例の 1 割まで含むことができます）を経験し、登録済み（P. 88 別表 1「内科専門研修修了要件（「症例数」、「疾患群」、「病歴要約」参照）。

ii) 29 病歴要約の内科専門医ボードによる査読・形成的評価後の受理（アクセプト）

iii) 所定の 2 編の学会発表または論文発表

iv) JMECC 受講

v) プログラムで定める講習会受講 vi) 日本内科学会専攻医登録評価システムを用いてメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）と指導医による内科専攻医評価を参照し、社会人である医師としての適性

2) 浜の町病院内科専門医研修プログラム管理委員会は、当該専攻医が上記修了要件を充足していることを確認し、研修期間修了約 1 か月前に浜の町病院内科専門医研修プログラム管理委員会で合議のうえ統括責任者が修了判定を行います。

(5) プログラム運用マニュアル・フォーマット等の整備

「専攻医研修実績記録フォーマット」，「指導医による指導とフィードバックの記録」および「指導者研修計画（FD）の実施記録」は、日本内科学会専攻医登録評価システムを用います。なお、「浜の町病院内科専門医研修マニュアル」【整備基準 44】（P. 78）と「浜の町病院内科専門研修指導者マニュアル」【整備基準 45】（P. 84）と別に示します。

13. 専門研修管理委員会の運営計画【整備基準 34, 35, 37～39】

(P. 76「浜の町病院内科専門研修プログラム管理委員会」参照)

1) 浜の町病院内科専門研修プログラムの管理運営体制の基準

- i) 内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。内科専門研修プログラム管理委員会は、統括責任者（診療部長）、事務局代表者、内科 Subspecialty 分野の研修指導責任者（診療科部長）および連携施設担当委員で構成されます。また、オブザーバーとして専攻医を委員会会議の一部に参加させる（P.77 浜の町病院内科専門研修プログラム管理委員会参照）。浜の町病院内科専門研修管理委員会の事務局を、浜の町病院臨床研修センターにおきます。
- ii) 浜の町病院内科専門研修施設群は、基幹施設、連携施設ともに内科専門研修プログラム管理委員会を設置します。委員長 1 名（指導医）は、基幹施設との連携のもと、活動するとともに、専攻医に関する情報を定期的に共有するために、毎年 3 月に開催する浜の町病院内科専門研修プログラム管理委員会の委員として出席します。
- 基幹施設、連携施設ともに、毎年 4 月 30 日までに、浜の町病院内科専門研修プログラム管理委員会に以下の報告を行います。
- ① 前年度の診療実績
 - a) 病院病床数, b) 内科病床数, c) 内科診療科数, d) 1 か月あたり内科外来患者数, e) 1 か月あたり内科入院患者数, f) 剖検数
 - ② 専門研修指導医数および専攻医数
 - a) 前年度の専攻医の指導実績, b) 今年度の指導医数/総合内科専門医数, c) 今年度の専攻医数, d) 次年度の専攻医受け入れ可能人数。
 - ③ 前年度の学術活動
 - a) 学会発表, b) 論文発表
 - ④ 施設状況
 - a) 施設区分, b) 指導可能領域, c) 内科カンファレンス, d) 他科との合同カンファレンス, e) 抄読会, f) 机, g) 図書館, h) 文献検索システム, i) 医療安全・感染対策・医療倫理に関する研修会, j) JMECC の開催。
 - ⑤ Subspecialty 領域の専門医数
日本消化器病学会消化器専門医 11 名, 日本肝臓学会専門医 3 名, 日本循環器学会循環器専門医 6 名, 日本感染症学会専門医 2 名, 日本糖尿病学会専門医 2 名, 日本腎臓学会専門医 3 名, 日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名, 日本血液学会血液専門医 4 名, 日本神経学会神経内科専門医 2 名, 日本リウマチ学会専門医 4 名, 日本救急医学会救急科専門医 1 名

14. プログラムとしての指導者研修 (FD) の計画【整備基準 18, 43】

指導法の標準化のため日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」を活用します。

厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨します。指導者研修 (FD) の実施記録として、日本内科学会専攻医登録評価システムを用います。

15. 専攻医の就業環境の整備機能 (労務管理)【整備基準 40】

労働基準法や医療法を順守することを原則とします。

専門研修（専攻医）1年目、2年目は基幹施設である浜の町病院の就業環境に、専門研修（専攻医）3年目は連携施設の就業環境に基づき、就業します（P.17「浜の町病院内科専門研修施設群」参照）。

基幹施設である浜の町病院の整備状況：

- ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
- ・浜の町病院常勤医師として勤務環境が保障されています。
- ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。
- ・ハラスメント委員会が浜の町病院に整備されています。
- ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
- ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。

専門研修施設群の各研修施設の状況については、P.17「浜の町病院内科専門施設群」を参照。また、総括的評価を行う際、専攻医および指導医は専攻医指導施設に対する評価も行い、その内容は浜の町病院内科専門研修プログラム管理委員会に報告されるが、そこには労働時間、当直回数、給与など、労働条件についての内容が含まれ、適切に改善を図ります。

16. 内科専門研修プログラムの改善方法【整備基準 48～51】

- 1) 専攻医による指導医および研修プログラムに対する評価日本内科学会専攻医登録評価システムを用いて無記名式逆評価を行います。逆評価は年に複数回行います。また、年に複数の研修施設に在籍して研修を行う場合には、研修施設ごとに逆評価を行います。その集計結果は担当指導医、施設の研修委員会、およびプログラム管理委員会が閲覧します。また集計結果に基づき、浜の町病院内科専門研修プログラムや指導医、あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます。
- 2) 専攻医等からの評価（フィードバック）をシステム改善につなげるプロセス専門研修施設の内科専門研修委員会、浜の町病院内科専門研修プログラム管理委員会、および日本専門医機構内科領域研修委員会は日本内科学会専攻医登録評価システムを用いて、専攻医の逆評価、専攻医の研修状況を把握します。把握した事項については、浜の町病院内科専門研修プログラム管理委員会が以下に分類して対応を検討します。
 - ① 即時改善を要する事項
 - ② 年度内に改善を要する事項
 - ③ 数年をかけて改善を要する事項
 - ④ 内科領域全体で改善を要する事項
 - ⑤ 特に改善を要しない事項

なお、研修施設群内で何らかの問題が発生し、施設群内で解決が困難である場合は、専攻医や指導医から日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします。

- ・担当指導医、施設の内科研修委員会、浜の町病院内科専門研修プログラム管理委員会、および日本専門医機構内科領域研修委員会は日本内科学会専攻医登録評価システムを用いて専攻医の研修状況を定期的にモニタし、浜の町病院内科専門研修プログラムが円滑に進められているか否かを判断して浜の町病院内科専門研修プログラムを評価します。

- ・担当指導医，各施設の内科研修委員会，浜の町病院内科専門研修プログラム管理委員会，および日本専門医機構内科領域研修委員会は日本内科学会専攻医登録評価システムを用いて担当指導医が専攻医の研修にどの程度関与しているかをモニタし，自律的な改善に役立てます．状況によって，日本専門医機構内科領域研修委員会の支援，指導を受け入れ，改善に役立てます．

3) 研修に対する監査（サイトビジット等）・調査への対応

浜の町病院臨床研修センターと浜の町病院内科専門研修プログラム管理委員会は，浜の町病院内科専門研修プログラムに対する日本専門医機構内科領域研修委員会からのサイトビジットを受け入れ対応します．その評価を基に，必要に応じて浜の町病院内科専門研修プログラムの改良を行います．

浜の町病院内科専門研修プログラム更新の際には，サイトビジットによる評価の結果と改良の方策について日本専門医機構内科領域研修委員会に報告します．

17. 専攻医の募集および採用の方法【整備基準 52】

本プログラム管理委員会は，website での公表や説明会などを行い，内科専攻医を募集します．翌年度のプログラムへの応募者は，浜の町病院臨床研修センターの website の浜の町病院医師募集要項（浜の町病院内科専門研修プログラム：内科専攻医）に従って応募します．書類選考、筆記試験および面接を行い，浜の町病院内科専門研修プログラム管理委員会において協議の上で採否を決定し，本人に文書で通知します．

(問い合わせ先) 浜の町病院臨床研修センター

E-mail: kenshuu-kanri@hamanomachi.jp

HP: <https://hamanomachi.kkr.or.jp>

Tel: 092-721-0831

浜の町病院内科専門研修プログラムを開始した専攻医は，遅滞なく日本内科学会専攻医登録評価システムにて登録を行います．

18. 内科専門研修の休止・中断，プログラム移動，プログラム外研修の条件【整備基準 33】

やむを得ない事情により他の内科専門研修プログラムの移動が必要になった場合には，適切に日本内科学会専攻医登録評価システムを用いて浜の町病院内科専門研修プログラムでの研修内容を遅滞なく登録し，担当指導医が認証します．これに基づき，浜の町病院内科専門研修プログラム管理委員会と移動後のプログラム管理委員会が，その継続的研修を相互に認証することにより，専攻医の継続的な研修を認めます．他の内科専門研修プログラムから浜の町病院内科専門研修プログラムへの移動の場合も同様です．

他の領域から浜の町病院内科専門研修プログラムに移行する場合，他の専門研修を修了し新たに内科領域専門研修をはじめる場合，あるいは初期研修における内科研修において専門研修での経験に匹敵する経験をしている場合には，当該専攻医が症例経験の根拠となる記録を担当指導医に提示し，担当指導医が内科専門研修の経験としてふさわしいと認め，さらに浜の町病院内科専門研修プログラム統括責任者が認めた場合に限り，日本内科学会

専攻医登録評価システムへの登録を認めます。症例経験として適切か否かの最終判定は日本専門医機構内科領域研修委員会の決定によります。

疾病あるいは妊娠・出産、産前後に伴う研修期間の休止については、プログラム終了要件を満たしており、かつ休職期間が6ヶ月以内であれば、研修期間を延長する必要はないものとします。これを超える期間の休止の場合は、研修期間の延長が必要です。短時間の非常勤勤務期間などがある場合、按分計算（1日8時間、週5日を基本単位とします）を行なうことによって、研修実績に加算します。留学期間は、原則として研修期間として認めません。

浜の町病院内科専門研修施設群
（地方型一般病院のモデルプログラム）
研修期間：3年間（基幹施設1年間＋連携施設2）

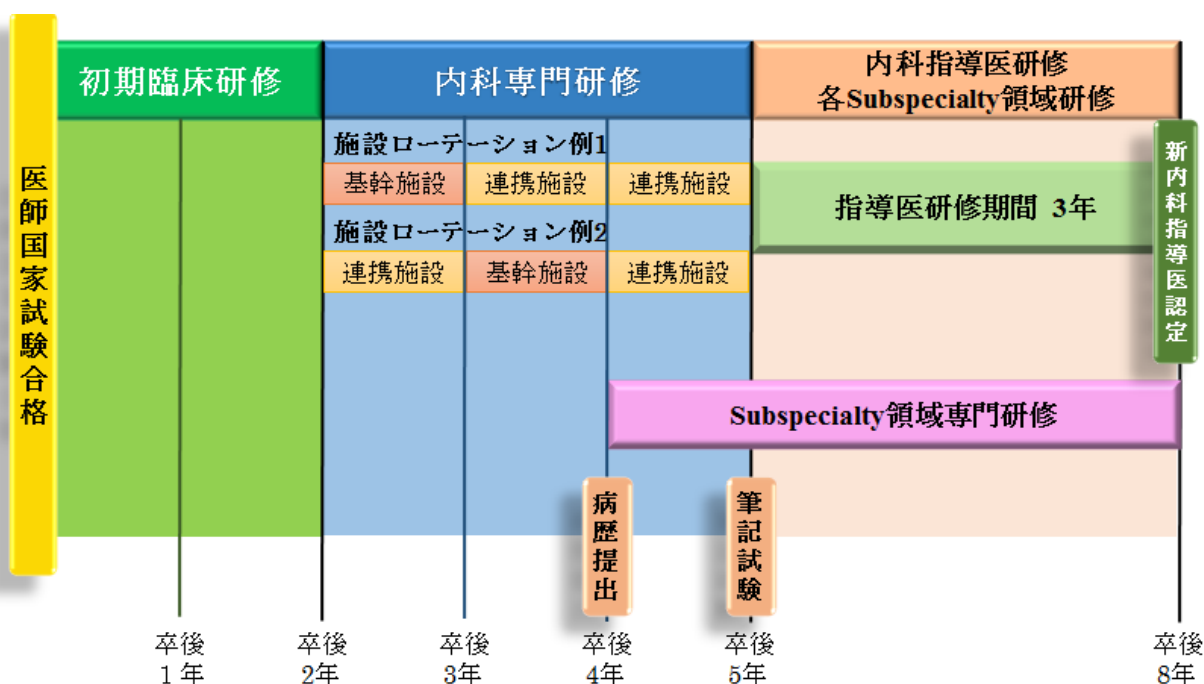


図1：浜の町病院内科専門研修プログラム(概念図)

表 1. 浜の町病院内科専門研修施設群研修施設

施設名	種別	病床数	内科系病床数	内科系診療科件数	内科指導医数	総合内科専門医数	内科剖検数
浜の町病院	基幹施設	468	245	13	11	25	1
九州大学病院	連携施設	1267	364	11	134	119	14
九州大学病院別府病院	連携施設	120	45	4	6	5	0
独立行政法人国立病院機構 小倉医療センター	連携施設	400	295	6	11	7	0
社会医療法人 製鉄記念八幡病院	連携施設	453	203	8	14	6	11
九州がんセンター	連携施設	411		6	13	7	7
福岡赤十字病院	連携施設	511	200	12	19	19	3
済生会福岡総合病院	連携施設	380	192	10	11	5	7
独立行政法人 地域医療機能推進機構 九州病院	連携施設	575	260	9	33	18	10
北九州市立医療センター	連携施設	636	165	12	21	23	10
社会医療法人雪の聖母会 聖マリア病院	連携施設	1097	192	11	18	19	6
九州中央病院	連携施設	330	151	10	15	13	12
独立行政法人国立病院機構 福岡東医療センター	連携施設	549	345	12	23	23	8
九州医療センター	連携施設	702	450	10	34	39	5
飯塚病院	連携施設	1040	561	18	37	47	9
唐津赤十字病院	連携施設	304	84	9	6	12	4
総合病院山口赤十字病院	連携施設	427	98	8	7	13	1
医療法人 原三信病院	連携施設	359	180	7	13	17	0
福岡山王病院	連携施設	199	100	9	13	12	1
福岡市民病院	連携施設	204	102	6	8	4	0
松山赤十字病院	連携施設	626	149	18	54	39	14
下関市立市民病院	連携施設	436	101	10	7	5	1
大分県立病院	連携施設	614	159	9	24	0	3
宮崎県立宮崎病院	連携施設	502	94	8	9	6	10
門司掖済会病院	連携施設	199	130	8	6	6	1
独立行政法人国立病院機構別府医療センター	連携施設	500	225	8	11	5	2
九州労災病院	連携施設	450	160	6	10	8	1
福岡和白病院	連携施設	369	100	9	5	10	4
国立病院機構 福岡病院	連携施設	360	120	7	12	9	0
白十字病院	連携施設	282	140	9	17	8	1
国家公務員共済組合連合会 千早病院	連携施設	175	85	2	4	8	1
社会保険 仲原病院	連携施設	125	125	5	6	3	0
大牟田病院	連携施設	402	399	5	6	0	4
西福岡病院	特別連携施設	238	190	9	7	3	0
福岡ゆたか中央病院	特別連携施設	162	117	5	2	1	1
前田病院	特別連携施設	129	127	8	3	5	0

表 2. 各内科専門研修施設の内科 13 領域の研修の可能性

施設名	種別	総合内科	消化器	循環器	内部	代謝	腎臓	呼吸器	血液	脳神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
浜の町病院	基幹施設	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
九州大学病院	連携施設	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
九州大学病院別府病院	連携施設	△	×	○	×	×	×	×	○	×	×	○	△	○
独立行政法人国立病院機構 小倉医療センター	連携施設	○	○	△	○	○	△	△	○	△	△	△	○	○
社会医療法人 製鉄記念八幡病院	連携施設	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
九州がんセンター	連携施設	○	○	×	○	○	△	△	○	△	×	△	△	△
福岡赤十字病院	連携施設	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
済生会福岡総合病院	連携施設	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
独立行政法人 地域医療機能推進機構 九州病院	連携施設	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○
北九州市立医療センター	連携施設	○	○	○	○	○	△	○	○	△	○	○	○	○
社会医療法人雪の聖母会 聖マリア病院	連携施設	×	○	○	△	○	○	○	○	○	×	×	△	○
九州中央病院	連携施設	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	△	○	○
独立行政法人国立病院機構 福岡東医療センター	連携施設	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
九州医療センター	連携施設	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
飯塚病院	連携施設	○	○	○	△	△	○	○	○	△	△	○	△	○
唐津赤十字病院	連携施設	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	×	○	○
綜合病院山口赤十字病院	連携施設	○	○	○	○	○	○	○	×	○	△	○	○	○
医療法人 原三信病院	連携施設	○	○	○	△	○	○	○	○	○	△	△	○	○
福岡山王病院	連携施設	○	○	○	○	○	×	○	○	△	○	○	○	○
福岡市民病院	連携施設	○	○	○	○	○	○	×	×	○	×	×	○	○
松山赤十字病院	連携施設	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
下関市立市民病院	連携施設	△	○	○	○	○	○	△	○	△	△	○	△	○
大分県立病院	連携施設	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
宮崎県立宮崎病院	連携施設	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
門司掖済会病院	連携施設	○	○	○	△	○	○	△	×	○	△	△	○	○
独立行政法人国立病院機構別府医療センター	連携施設	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
九州労災病院	連携施設	○	○	○	○	○	△	×	○	○	△	○	○	×
福岡和白病院	連携施設	○	○	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○
国立病院機構 福岡病院	連携施設	△	×	△	×	×	×	○	×	×	○	○	△	×
白十字病院	連携施設	○	○	○	△	○	○	○	△	○	△	△	○	○
国家公務員共済組合連合会 千早病院	連携施設	△	○	○	○	×	×	○	○	×	×	○	△	△
社会保険 仲原病院	連携施設	○	○	△	○	○	○	○	△	△	△	△	○	△
大牟田病院	連携施設	×	×	△	×	×	×	○	×	○	×	×	×	×
西福岡病院	特別連携施設	○	○	○	○	○	○	○	×	△	△	△	△	○
福岡ゆたか中央病院	特別連携施設	○	○	○	×	×	×	○	×	×	×	○	×	×
前田病院	特別連携施設	○	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△

各研修施設での内科 13 領域における診療経験の研修可能性を 3 段階（○，△，×）に評価しました。（○：研修できる，△：時に研修できる，×：ほとんど研修できない）

専門研修施設群の構成要件【整備基準 25】

内科領域では、多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須です。浜の町病院内科専門研修施設群研修施設は福岡県および九州北部の医療機関から構成されています。

浜の町病院は、福岡県福岡・糸島医療圏の中心的な急性期病院です。そこでの研修は、地域における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験を研修します。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます。

連携施設には、高次機能・専門病院である九州大学病院、九州大学別府病院、小倉医療センター、製鉄記念八幡病院、九州がんセンター、福岡赤十字病院、済生会福岡総合病院、JCHO 九州病院、北九州市立医療センター、聖マリア病院、九州中央病院、福岡東医療センター、九州医療センター、飯塚病院、地域基幹病院である唐津赤十字病院、山口赤十字病院、原三信病院、福岡山王病院、福岡市民病院、松山赤十字病院、下関市立市民病院、大分県立病院、宮崎県立宮崎病院、門司掖済会病院、別府医療センター、九州労災病院、福岡和白病院および地域医療密着型病院である福岡病院、白十字病院、千早病院、仲原病院、大牟田病院、特別連携施設の西福岡病院、福岡ゆたか中央病院、前田病院で構成しています。

高次機能・専門病院では、高度な急性期医療、より専門的な内科診療、希少疾患を中心とした診療経験を研修し、臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につけます。

地域基幹病院では、浜の町病院と異なる環境で、地域の第一線における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験をより深く研修します。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を積み重ねます。

地域医療密着型病院では、地域に根ざした医療、地域包括ケア、在宅医療などを中心とした診療経験を研修します。

専門研修施設（連携施設）の選択

- ・専攻医2年目の秋に専攻医の希望・将来像、研修達成度およびメディカルスタッフによる内科専門研修評価などを基に、研修施設を調整し決定します。
- ・病歴提出を終える専攻医3年目の1年間、連携施設で研修をします（図1）。なお、研修達成度によってはSubspecialty研修も可能です（個々人により異なります）。

専門研修施設群の地理的範囲【整備基準 26】

福岡県福岡・糸島医療圏、近隣医療圏および九州、山口、松山の医療機関から構成しています。専攻医と指導医のミーティングは研修状況を考慮して勘案し、電話やメールなどを用いて専攻医が指導医に相談しやすい状況を維持し、連携に支障を来さないように努めます。

1) 専門研修基幹施設

浜の町病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・浜の町病院非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ・ハラスメント委員会が浜の町病院に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医は 11 名在籍しています（下記）。 ・臨床研修センター（教育部内に設置、担当：統括責任者・診療部長）が内科専門研修プログラムの管理を行い、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を臨床研修センターが統括管理します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024 年度実績 6 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2024 年度実績 3 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（福岡地域救急医療合同カンファレンス、福岡市内科医会、福岡市中央区内科医会、福岡市中央区消化器病症例検討会など）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2024 年度実績 2 回：受講者 12 名）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に教育部が対応します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ・専門研修に必要な剖検（2022 年度実績 6 件、2023 年度 5 件、2024 年度 1 件）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2024 年度実績 2 回）しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に治験審査委員会を開催（2024 年度実績 10 回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に学会発表（2024 年度実績 8 演題）をしています。
指導責任者	衛藤徹也 【内科専攻医へのメッセージ】 浜の町病院は、福岡県福岡・糸島医療圏の中心的な急性期病院であり、福岡・糸島医療圏・近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。 内科ほぼすべての分野において、専門学会の指導医あるいは専門医の資格を持つ部長が指導に当たり、幅広い研修が可能です。シミュレーションラボセンターを併設しているため、高度なシミュレーターを使用して技術指導を受ける

	ことが可能です。急患や総合診療症例も多く、急性疾患から慢性疾患まで幅広く研修することが可能です。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 11 名, 日本内科学会総合内科専門医 25 名, 日本消化器病学会消化器専門医 11 名, 日本肝臓学会専門医 3 名, 日本循環器学会循環器専門医 6 名, 日本感染症学会専門医 2 名, 日本糖尿病学会専門医 2 名, 日本腎臓学会専門医 3 名, 日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名, 日本血液学会血液専門医 4 名, 日本神経学会神経内科専門医 2 名, 日本リウマチ学会専門医 4 名, 日本救急医学会救急科専門医 1 名, ほか
外来・入院患者数	外来患者 6,470 名 (1 ヶ月平均) 入院患者 509 名 (1 ヶ月平均)
経験できる疾患群	研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域, 70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を, 実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく, 超高齢社会に対応した地域に根ざした医療, 病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会内科専門研修基幹病院 日本消化器病学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会専門医制度専門医研修施設認定 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設認定 日本リウマチ学会教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本神経学会専門医制度教育関連施設認定 日本脳卒中学会研修教育病院認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本消化器内視鏡学会認定医制度指導施設認定 日本病院総合診療医学会認定施設 など

2) 専門研修連携施設

1. 九州大学病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・九州大学シニアレジデントもしくは指導診療医として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。 ・ハラスメント委員会が九州大学に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が（2024 年度）151 名在籍しています（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2014 年度実績 医療倫理 1 回（4 月に就職時に参加が必須。今後は年度内に複数回の定期開催を予定）、医療安全 40 回、感染対策 40 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス（2017 年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2024 年度実績 17 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを（2015 年度実績 6 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24/31】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、リウマチ、膠原病、感染症および救急の全ての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2021 年度実績 35 演題）をしています。
指導責任者	桑原 綾子 【内科専攻医へのメッセージ】 九州大学病院は福岡県内の協力病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。本プログラムでは初期臨床研修修了後に協力病院として大学病院の内科系診療科も加わることで、リサーチマインドの育成などを含む質の高い内科医の育成を目指します。また単に内科医を養成するだけでなく、医療安全・倫理を重視し、患者本位の医療サービスが提供でき、医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 151 名、日本内科学会総合内科専門医 127 名 日本消化器病学会消化器専門医 38 名、日本循環器学会循環器専門医 27 名、 日本内分泌学会専門医 14 名、日本糖尿病学会専門医 15 名、 日本腎臓病学会専門医 12 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 14 名、 日本血液学会血液専門医 10 名、日本神経学会神経内科専門医 19 名、 日本アレルギー学会専門医（内科）7 名、日本リウマチ学会専門医 4 名、 日本感染症学会専門医 10 名、日本救急医学会救急科専門医 5 名、 老年医学会 5 名、肝臓学会 14 名、消化器内視鏡学会 25 名、臨床腫瘍学会 8 名 他
外来・入院患者数	内科系外来患者 16,570 名（1 ヶ月平均）内科系入院患者 10,885 名（1 か月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。

経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度認定教育施設 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本老年医学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本血液学会血液研修施設 日本神経学会教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本心療内科学会専門医研修施設 日本心身医学会研修診療施設 日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設 日本東洋医学会教育病院 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本感染症学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会高血圧認定研修施設 ステントグラフト実施施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本認知症学会教育施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 など

2. 九州大学別府病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する制度があります。 ・監査室が九州大学に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、当直室が整備されています。 ・敷地内に寮があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が6名在籍しています（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療安全・感染対策講習会を定期的に行い、専攻医に医療安全2回、感染対策2回の受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。

	・地域参加型の症例検討会（2022 年度実績地元医師会合同勉強会 4 回、同門会としてのセミナー2 回）を定期的に開催しています。また、院内多職種参加型の勉強会（2022 年度実績 6 回）を行い、専攻医にも積極的に参加頂いています。
認定基準 【整備基準 24/31】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、リウマチ、循環器、血液の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2022 年度実績 3 演題）をしています。 ・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われています。
指導責任者	山崎 聡 【内科専攻医へのメッセージ】 当科の特徴は、免疫・アレルギーから血液・腫瘍、循環器までさまざまな分野の専門医が、同じ内科で診療を行っていることです。勉強会、カンファレンス、回診も一緒に行っており、専門知識の習得はもちろんですが、患者さん全体を広い視野で診療するという姿勢を研修することができると思います。同時に当院では開院以来 90 年にわたって温泉・リハビリ療法を積極的に行っており、とくに高齢者の内科疾患の治療について薬物療法以外の視点から研修することは貴重な経験になると思います。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 6 名、日本内科学会総合内科専門医 4 名 日本リウマチ学会専門医 2 名、日本循環器学会循環器専門医 1 名、 日本血液学会血液専門医 1 名、日本臨床腫瘍内科専門医 1 名ほか
外来・入院患者数	外来患者 1,258 名（1 ヶ月平均） 入院患者 1,370 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	1) 研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群のうち、関節リウマチをはじめとする自己免疫疾患の治療を確実に経験でき、血液腫瘍および甲状腺癌をはじめとする各種固形がんへの抗がん剤治療と付随するオンコロジーエマージェンシー、緩和ケア治療、終末期医療等についても経験できます。 2) 地域の特性として、高齢者に発生した内科疾患について、心不全や虚血性心疾患患者の診断・治療など、リウマチ・がんとの関連の有無を問わず幅広く経験することが可能です。
経験できる技術・技能	1) 関節リウマチ患者の診断、治療など、幅広い診療を経験できます。 2) 血液腫瘍や固形腫瘍の診断、抗がん剤治療（標準治療）、緩和ケア治療、放射線治療など、幅広いがん診療を経験できます。 3) 技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能のうち、骨髄検査、超音波検査などを、実際の症例に基づきながら経験することができます。 4) また、循環器領域においては、最新(4D)超音波心エコー機器や心臓カテーテル検査による心疾患の診断を経験できます。JMECC のインストラクター資格を有する医師も常勤しており、指導を受けることも可能です。
経験できる地域医療・診療連携	関節リウマチ、血液疾患など的高齢者への診療に関連した地域医療・診療連携を経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本リウマチ学会認定研修施設 日本循環器学会認定研修施設 日本血液学会認定血液研修施設 など

3. 小倉医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度の基幹型および協力型研修指定病院です。 ・施設内に研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・国立病院機構非常勤医師として適切な勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署が整備されています。 ・ハラスメントに適切に対処する部署が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が 11 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療安全・感染対策等の講習会を定期的開催（2022 年度実績 医療安全 3 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。医療倫理の講習会については昨年度の開催実績はありませんが、基幹施設で行なう講習会の受講を専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスに定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24/31】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、すべての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2022 年度実績 1 演題）をしています。 ・倫理委員会を設置し、定期的開催しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催しています。 ・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があります。
指導責任者	佐藤丈顕
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 11 名 日本内科学会総合内科専門医 7 名 日本肝臓学会肝臓専門医 3 名 日本消化器病学会消化器専門医 6 名、日本消化器内視鏡学会専門医 2 名、 日本循環器学会循環器専門医 1 名、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 1 名 日本糖尿病学会専門医 2 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名、 日本血液学会血液専門医 2 名
外来・入院患者数	外来患者 1,925 名 (1 ヶ月平均) 入院患者 2,322 名 (1 ヶ月平均)
経験できる疾患群	1) 研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域、70 疾患群のうち、すべての分野を幅広く経験できます。 2) 特に総合内科 (一般、高齢者、腫瘍)、消化器、内分泌、代謝、呼吸器、血液疾患については多くの症例を経験できます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	当院は地域医療支援病院であり、病院敷地内に医師会の介護サービス総合センターが立地しています。地域医療連携室等地域医療と連携できる体制が整っています。
学会認定施設	・日本内科学会新専門医制度連携施設

(内科系)	・日本消化器病学会認定施設 ・日本肝臓学会認定施設 ・日本糖尿病学会認定教育施設 II ・日本血液学会血液研修認定施設 ・日本呼吸器学会認定施設 ・日本がん治療認定医機構認定研修施設 ・日本肥満学会認定肥満症専門病院 など
-------	---

4. 製鉄記念八幡病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・常勤医師として採用し労務環境を保障しています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課）があり、1 回/年のストレスチェックを実施しています。 ・過勤務は毎月人事課より幹部会議に報告され、長時間勤務者は病院長による面談により状況把握並びに改善策を検討しています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、シャワー室、当直室、仮眠室、休憩室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、365 日 24 時間利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が 9 名在籍しています（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2015 年度実績 医療倫理 1 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス（2017 年度予定）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的開催（2015 年度実績 8 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24/31】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、代謝、呼吸器、腎臓、神経および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検（2015 年度実績 10 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2014 年度実績 3 演題）をしています。 ・倫理委員会を設置し、定期的開催（2014 年度実績 3 回）しています。 ・臨床研究支援室を設置し、定期的に治験審査会を開催（2014 年度実績 6 回）しています。 ・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われています。
指導責任者	古賀徳之 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は内科が主体の病院です。総合内科、消化管、肝臓、循環器、糖尿病、呼吸器、腎臓、神経、救急において、高度急性期医療から回復期、在宅、終末期医療までチーム医療や地域医療との診療連携も含めた十分な研修ができます。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 13 名、日本内科学会総合内科専門医 6 名 日本消化器病学会消化器専門医 4 名、日本循環器学会循環器専門医 4 名、 日本糖尿病学会専門医 3 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名、 日本腎臓学会専門医 4 名、日本肝臓学会専門医 2 名、

	日本救急医学会専門医 1 名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 498 名（1 日平均） 入院患者 346 名（1 日平均）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群のうち、血液、膠原病、内分泌を除く疾患群の内科診療を経験できます。
経験できる技術・技能	1) 技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます 2) 特に冠動脈、脳血管、シャントをはじめとする心血管インターベンション、がんの診断、抗がん剤治療、緩和ケア治療、放射線治療、内視鏡検査・治療などを経験できます。
経験できる地域医療・診療連携	近隣のクリニックとの前方連携、療養型病院との後方連携による地域医療・診療連携を経験できます。また高齢者総合評価に基づく高齢者在宅復帰に向けチーム医療を経験できます
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本高血圧学会専門医認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本心身医学会認定医制度研修診療施設 日本腎臓学会認定研修施設 日本透析医学会教育関連施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸療法医学会呼吸療法専門医研修施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本乳癌学会関連施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本老年医学会認定研修施設 日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育病院 日本静脈経腸栄養学会 N S T 実地修練認定教育施設 日本栄養療法推進協議会 N S T 稼動施設 日本病理学会研修認定施設 B 日本臨床細胞学会施設認定、教育研修施設、コントロールサーベイなど

5. 九州がんセンター

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・国立病院機構非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（管理科職員担当）があります。 ・監査・コンプライアンス室が国立病院機構本部に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように更衣室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が 9 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。

	・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24/31】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、消化器、肝臓、代謝、呼吸器および血液の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催しています。 ・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われています。
指導責任者	杉本理恵 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は九州で唯一のがん専門病院です。がんの早期発見やステージングの為の様々なデバイスを用いた適格な診断方法、標準的化学療法や放射線治療などを組み合わせた集学的治療、希少がんの診断と治療、薬物や内視鏡治療などを含めた多面的な緩和治療、さらに在宅支援や緩和ケア病院との地域連携、様々な治験や臨床研究、がんの栄養療法などがんに関する様々な事を学び、技術を習得できます。またがん診療のみならず付随しておこる感染症や代謝性疾患などの内科疾患についても幅広く経験することができます。当院で研修することで内科専門医のみならず subspeciality の資格を得るためにも必要な症例を担当することができます。ぜひ我々と一緒にがんの high volume center で研修してみませんか。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 9 名、日本内科学会総合内科専門医 14 名 日本消化器病学会消化器専門医 6 名、指導医 3 名、 日本循環器学会循環器専門医 1 名、 日本肝臓学会専門医 3 名、指導医 2 名 日本血液学会血液専門医 4 名、指導医 3 名 臨床腫瘍学会薬物療法専門医 5 名、指導医 4 名、 日本内視鏡学会専門医 1 名 がん治療認定医 5 名、暫定指導医 2 名 日本呼吸器学会指導医 1 名、日本膵臓学会指導医 3 名、 老年医学会指導医 1 名 ほか
外来・入院患者数	外来患者 7,492 名 (1 ヶ月平均) 入院患者 651 名 (1 ヶ月平均)
経験できる疾患群	1) 研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域、70 疾患群のうち、全ての固形癌、血液腫瘍の内科治療を経験でき、付随するオンコロジーエマージェンシー、緩和ケア治療、終末期医療等についても経験できます。 2) 研修手帳の一部の疾患を除き、多数の通院・入院患者に発生した内科疾患について、がんとの関連の有無を問わず幅広く経験することが可能です。
経験できる技術・技能	1) 日本屈指のがん専門病院において、がんの診断、抗がん剤治療 (標準治療、臨床試験・治験)、緩和ケア治療、放射線治療、内視鏡検査・治療、インターベンショナルラジオロジーなど、幅広いがん診療を経験できます。 2) 技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	在宅緩和ケア治療、終末期の在宅診療などがん診療に関連した地域医療・診療連携を経験できます。

学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本肝臓学会認定施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本呼吸器学会関連施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本乳癌学会認定施設 日本放射線腫瘍学会認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本病理学会研修認定施設 B 日本臨床細胞学会教育研修施設 日本臨床細胞学会認定施設 など
-----------------	---

6. 福岡赤十字病院

認定基準 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室（専任の担当者有り）とインターネット環境（情報システム課が管理）があります。 ・日本赤十字社 福岡赤十字病院の常勤医師として勤務環境は適切に管理されています。 ・メンタルストレスに関しては福岡赤十字病院職員メンタルヘルスクア相談実施要綱が制定され、適切に対処する部署（人事課職員担当）があります。さらに当院産業医また外部専門医（臨床心理士）によるカウンセリングが定期的にまたは希望に応じてかつ秘密を保持しながら、適宜実施されています。 ・日本赤十字社ハラスメント防止規程に則り、また院内にハラスメント防止委員会が設置されています。各部署にハラスメント相談員を置くとともにハラスメント相談箱やメールによる相談も受け付け、プライバシーを厳守し、不利益な取り扱いを受けることのないよう十分配慮して対応しています。 ・専攻医を含めた女性医師が安心して勤務できるよう休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育園を設置しており、職員であれば利用することができます。週に1日の夜間保育も実施しています。
認定基準 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医は19名在籍しています（下記）。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長）、プログラム管理者（診療部長）；専門医研修プログラム準備委員会から2016年度中に移行予定）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群との合同カンファレンスを定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを適宜開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。

	・地域参加型のカンファレンス（サザンハートカンファレンス、サザンキドニーカンファレンス、サザンブレインカンファレンス、サザン General Medicine (SGM) 研究会、南区糖尿病を考える会、筑紫糖尿病研究会、福岡南・筑紫地区消化器カンファレンス。胃守会、南区合同症例検討会、病診連携セミナー、膠原病疾患を考える会、Team Myeloma Conference 等；2014 年度実績 24 回）を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2015 年度開催実績 2 回：受講者 11 名）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センター（2016 年度予定）が対応します。 ・特別連携施設である今津ならびに嘉麻赤十字病院での研修は、福岡赤十字病院のプログラム管理委員会と研修委員会とが管理と指導を行います。福岡赤十字病院の担当指導医が、今津ならびに嘉麻赤十字病院での上級医とともに、専攻医の研修指導にあたり、指導の質を保ちます。さらに特別連携施設での研修中も福岡赤十字病院の専用携帯電話を携帯し、同院の指導医を含めた全医師に直接電話あるいはメールで（この場合画像の送信も可能）相談出来る体制があります。また、最も遠方の病院でも距離的には車を利用して 120 分程度の移動距離であり（JR 等の公共交通機関を利用しても移動可能）、専攻医が当院に定期的（月に数回）戻り、指導医と直接面談し、指導を受けることも予定しています。
認定基準 【整備基準 24/31】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。（上記） ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます。（上記） ・専門研修に必要な剖検（2014 年度実績 15 体、2013 年度 13 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室、インターネット環境、写真室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、適宜（定期的に）開催（2014 年度実績 8 回）しています。 ・治験管理センターを設置し、定期的に治験審査委員会（受託研究審査会）を開催（2014 年度実績 11 回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2014 年度実績 5 演題）をしています。
指導責任者	青柳 邦彦 【内科専攻医へのメッセージ】 福岡赤十字病院は福岡・糸島医療圏南部の中心的な急性期病院であります。福岡・糸島医療圏の南部を中心に、山口・佐賀・大分にある連携施設・特別連携施設とも協力して内科専門研修を行い、超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し、必要に応じた可塑性のある地域の実情に合わせた実践的な医療も行える内科専門医の育成を目指します。 主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。 具体的には福岡赤十字病院は、36 診療科（外科の細分化専門科を含む）、511 床を有し、ヘリポートも併設した福岡県福岡市南部医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核です。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディジーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。また、災害時における国内外への医療チームの派遣などの災害救護、国際医療

	救援活動にも携わり、社会貢献にも力を入れています。さらに、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養も見につけられます。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 14 名、日本内科学会総合内科専門医 8 名、日本消化器病学会消化器専門医 4 名、日本循環器学会循環器専門医 6 名、日本糖尿病学会専門医 3 名、日本腎臓病学会専門医 5 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名、日本血液学会血液専門医 1 名、日本神経学会神経内科専門医 0 名、日本アレルギー学会専門医（内科）0 名、日本リウマチ学会専門医 1 名、日本感染症学会専門医 2 名、日本救急医学会救急科専門医 2 名、ほか日本内科学会指導医 14 名、日本内科学会総合内科専門医 8 名、日本消化器病学会消化器専門医 4 名、日本循環器学会循環器専門医 6 名、日本糖尿病学会専門医 3 名、日本腎臓病学会専門医 5 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名、日本血液学会血液専門医 1 名、日本神経学会神経内科専門医 0 名、日本アレルギー学会専門医（内科）0 名、日本リウマチ学会専門医 1 名、日本感染症学会専門医 2 名、日本救急医学会救急科専門医 2 名、ほか
外来・入院患者数	病院全体：外来患者 19,591 名（1 ヶ月平均） 入院患者 1,071 名（1 ヶ月平均） うち内科：外来患者 9,006 名（1 ヶ月平均） 入院患者 478 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定内科認定医制度教育病院 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会専門医制度研修施設 日本透析医学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器病内視鏡学会認定専門医制度指導施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本脳神経血管内治療学会認定研修施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本リウマチ学会教育施設 など

7. 済生会福岡総合病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・福岡県済生会福岡総合病院非常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ・ハラスメント委員会が総務課に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に病児保育所があり、利用可能です。
---	---

認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医は 25 名在籍しています（下記）。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長），プログラム管理者（診療部長）（ともに内科指導医）にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2019 年度実績 12 回以上）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2019 年度実績 10 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（天神メディカルネットフォーラム，21 世紀循環器セミナー，天神消化器病カンファレンス，天神神経カンファレンス，福岡脳卒中カンファレンス福岡市内科医会研究会，福岡市中央区内科医会研究会，福岡市勤務医内科医会研究会，福岡消化器病研究会，福岡呼吸器病研究会ほか；2019 年度実績 30 回以上）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2019 年度開催実績 1 回：受講者 6 名）を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
認定基準 【整備基準 24/31】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 12 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ・専門研修に必要な剖検（2017 年度実績 12 体，2018 年度 12 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し，定期的に開催（2019 年度実績 10 回）しています。 ・治験管理室を設置し，定期的に治験審査会（北部九州済生会共同治験委員会）を開催（2019 年度実績 12 回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2017 年度実績 6 演題）をしています。
指導責任者	落合利彰（副院長） 【内科専攻医へのメッセージ】 済生会福岡総合病院は，福岡県福岡・糸島医療圏の中心的な急性期病院であり，近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い，総合力を備えて地域医療にも貢献し，全人的な態度で診療ができる内科専門医の育成を目指します。当院は，内科系の診療科のみならず，すべての診療科の垣根が低く，チーム医療に基づいた専門研修体制に優れています。基本理念である「良質で安全な医療」「救急医療の充実」「高度専門医療の推進」「地域医療連携」を重視し，患者本位の医療サービスを提供しています。研修においては，主担当医として，入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで経時的に，診断・治療の流れを通じて，社会的背景・療養環境調整をも包括する質の高い内科専門医になります。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 25 名，日本内科学会総合内科専門医 12 名 日本消化器病学会消化器専門医 5 名，日本循環器学会循環器専門医 6 名， 日本糖尿病学会専門医 2 名，日本腎臓病学会専門医 1 名， 日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名，日本血液学会血液専門医 1 名， 日本神経学会神経内科専門医 3 名，日本アレルギー学会専門医（内科）1 名， 日本リウマチ学会専門医 1 名，日本感染症学会専門医 1 名，

	日本救急医学会救急科専門医 1 名, ほか
外来・入院患者数	外来患者 5721 名 (内科系 1 ヶ月平均) 入院患者 484 名 (内科系 1 ヶ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて, 研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域, 70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を, 実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく, 超高齢社会に対応した地域に根ざした医療, 病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本神経学会教育関連施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本高血圧学会専門医認定施設 など

8. 地域医療機能推進機構 (JCHO) 九州病院

認定基準 1) 専攻医の環境	● 厚生労働省臨床研修指定病院 (管理型臨床研修病院) です。 ● 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。UpToDate、今日の診療と治療、医学雑誌は電子書籍になっており、図書室以外でもダウンロードして読むことができます。ダウンロードができない文献については出版社に注文しますが、病院が全額補助をしています。 ● 医局内に個人専用の机・本棚などが整備されています。 ● JCHO九州病院非常勤医師として勤務環境が保障されています。 ● メンタルストレスに適切に対処する部署 (総務企画課職員+臨床心理士及び安全衛生委員会) があります。 ● ハラスメント委員会がJCHO九州病院内に整備されています。 ● 女性専攻医が安心して勤務できるように、女性医師専用の休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ● 敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 2) 専門研修プログラムの環境	● 指導医は33名、総合内科専門医は17名在籍しています。 ● 内科専門研修プログラム管理委員会 (統括責任者は副院長、総合内科専門医かつ指導医) にて基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ● 基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と教育センターを設置しています。 ● 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。

	● 研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ● CPCを定期的に開催し専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ● 地域参加型のカンファレンス（北筑カンファレンス〔循環器関係、年4回開催〕、岸の浦カンファレンス〔消化器関係、偶数月開催〕、八幡成人病懇話会〔年3回〕、内科医会〔月1回〕、八幡内科医会学術研究会〔月1回〕、帆柱内科カンファレンス〔月1回〕、北部福岡感染症研究会〔月1回〕、北九州胃腸懇話会〔月1回〕、北部福岡臨床救急セミナー〔月1回〕、北九州糖尿病の集い〔月1回〕）を定期的に開催し、専攻医が参加しやすいように時間的余裕を与えます。 ● プログラムに所属する専攻医にJMECC受講を開催します。 ● 日本専門医機構による施設実地調査に教育センターが対応します。
認定基準 【整備基準 24/31】 3) 診療経験の環境	● カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ● 70疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。 ● 専門研修に必要な剖検（過去3年の平均は10体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	● 臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。 ● 倫理委員会を設置し、定期的に開催（年間実績12回）しています。 ● 治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（年間12回）しています。 ● 日本内科学会講演会あるいは同地方会での発表をサポートします。 ● 専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われています。
指導責任者	原田 大志（内科部長、統括診療部長） 【内科専攻医へのメッセージ】 JCHO九州病院（独立行政法人地域医療機能推進機構、Japan Community Healthcare Organization [JCHO]）は、その名の通り日本の地域医療機能を推進することを目標に設立された全国に57あるJCHO病院群の一つです。その中でも JCHO 九州病院は福岡県北九州市・遠賀・中間医療圏の中心的高次機能・専門病院であり、また急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核です。高度な急性期医療、より専門的な内科診療、希少疾患などの診療経験を研修し、臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身に着けることができます。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディジーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。このようにして、JCHO九州病院での研修は、地域における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験を通じて、将来の地域医療を担う総合内科医から内科専門分野を担う医師まで、幅広い方面で活躍できる内科専門医の養成を目指しています。主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで経時的に診療に関与し、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医を育てることが目標です。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 18 名、日本内科学会総合内科専門医 18 名 日本消化器病学会消化器専門医 5 名、日本循環器学会循環器専門医 5 名、日本糖尿病学会専門

	医 1 名, 日本腎臓病学会専門医 1 名, 日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名, 日本血液学会血液専門医 4 名, 日本神経学会神経内科専門医 1 名, 日本アレルギー学会専門医(内科) 0 名, 日本リウマチ学会専門医 0 名, 日本感染症学会専門医 1 名, 日本救急医学会救急科専門医 2 名, ほか
外来・入院患者数	2022 年一日平均外来患者数 743.5 人、一日平均入院患者数 418.0 人
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて, 研修手帳(疾患群項目表)にある 56 領域, 160 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を, 実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	これからの超高齢化社会で人々は複数の疾患を抱え, 医療・介護・福祉などが地域の中で完結する必要があります。その中で急性期/専門医療～回復期リハビリ～介護(在宅, 福祉施設)の中心となって活躍している総合診療医もその中心は内科医です。JCHO九州病院は広く地域医療を担うバランスのとれた内科専門医を養成するためにこのプログラムを作成しました。即ち, JCHO九州病院では急性期医療だけでなく, 超高齢社会に対応した地域に根ざした医療, 病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設(内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院、日本老年医学会認定施設、日本消化器学会専門医制度関連施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本不整脈学会・日本心電図学会認定不整脈専門医研修施設、日本超音波医学界認定専門医研修施設、日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設 ICD/両室ペーシング植え込み認定施設、ステントグラフト実施施設(腹部大動脈瘤, 胸部大動脈瘤)、心臓リハビリテーション研修施設、日本呼吸器学会指導医制度関連施設、日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設、日本血液学会認定血液研修施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本臨床細胞学会認定施設、日本神経学会専門医制度准教育施設、日本糖尿病学会認定教育施設連携教育施設、日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育病院、日本救急医学会救急科専門医指定施設、日本高血圧学会専門医認定施設、日本プライマリ・ケア学会認定医研修施設、日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設など

9. 北九州市立医療センター

認定基準 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。・※※市非常勤医師として労務環境が保障されています。・メンタルストレスに適切に対処する窓口(職員健康ホットライン、EAP(セーフティネット))があります。・ハラスメントに関する苦情の申し出および相談は①病院局総務課 ②病院事務局管理課庶務係③総務企画局人事課 ④総務企画局給与課安全衛生係 ⑤ 総務企画局女性活躍推進課 ⑥監察官にて受付を行っています。・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣
-------------------	---

	室、仮眠室、シャワー 室、当直室が整備されています。・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医は 13 名在籍しています（下記）。・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長）、プログラム管理者（統括部長）（総合内科専門医かつ指導医）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置します。・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2021 年度実績 6 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。・CPC を随時開催（2021 年度実績 3 回 10 症例）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。・地域参加型のカンファレンス（北九州市立医療センター研修会；2021 年度実績 9 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。・日本専門医機構による施設実地調査に内科臨床研修管理委員会）が対応します。
認定基準 【整備基準 24/31】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 9 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。・専門研修に必要な剖検（2020 年度実績 3 体、2021 年度 10 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2021 年度実績 12 回）しています。・臨床研究推進センターを設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2021 年度実績 6 回）しています。・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2021 年度実績 6 演題）をしています。
指導責任者	大野 裕樹
指導医数 （常勤医）	13 人（感染症、膠原病、血液、肝臓、内分泌代謝、糖尿病、循環器、呼吸器、消化器）
外来・入院患者数	外来患者数（22,453 名 1 ヶ月平均延数） 入院患者数（10,357 名 1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	矢津内科消化器科クリニック
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本感染症学会認定研修施設 日本肝臓病学会認定施設 日本血液学会認定専門研修教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本老年医学会認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本消化器病学会指導施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本循環器学会認定専門医研修施設 日本臨床腫瘍学会認定施設 など

10. 聖マリア病院

認定基準 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・社会医療法人 雪の聖母会 聖マリア病院常勤医として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（労務管理部）があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。
-------------------	---

	・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に保育所があり、利用可能です。
認定基準 2) 専門研修プログラムの環境	・内科指導医が18名在籍しています（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2021年度実績 医療倫理1回、医療安全・感染対策2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス（今後開催予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的に開催（2021年度実績11回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（内科系合同カンファレンス、地域医療支援講演会；2021年度実績 内科系合同カンファレンス9回、地域医療支援講演会12回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準23/31】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検（2021年度実績6体）を行っています。
認定基準 【整備基準23】 4) 学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表（2021年度実績2演題）をしています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2021年度実績1回）しています。 ・治験に適切に対応する部署があります。 ・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われています。
指導責任者	田代 英樹 【内科専攻医へのメッセージ】 当院にて JMECC も開催致しますので、皆様からのご応募をお待ちしております。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医18名、日本内科学会総合内科専門医19名 日本消化器病学会消化器病専門医5名 日本循環器学会循環器専門医7名 日本呼吸器学会呼吸器専門医2名 日本血液学会血液専門医5名 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医0名 日本糖尿病学会糖尿病専門医4名 日本腎臓病学会腎臓専門医3名 日本肝臓学会肝臓専門医1名 日本神経学会神経内科専門医1名 日本リウマチ学会リウマチ専門医1名 日本感染症学会感染症専門医2名、ほか
外来・入院患者数	外来患者697名（1日平均） 入院患者682名（1日平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設	日本内科学会認定医制度認定教育施設

(内科サブスペシ ヤルティ)	日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本神経学会専門医制度認定準教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本リウマチ学会認定教育施設 日本感染症学会認定研修施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本肝臓学会認定施設
学会認定施設 (その他)	日本消化器内視鏡学会指導施設 日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本臨床細胞学会認定施設 日本集中治療医学会専門医研修施設 日本輸血・細胞治療学会認定医制度指定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 など

11. 九州中央病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・九州中央病院常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処するメンタルヘルスセンターがあります。 ・ハラスメント委員会が庶務課に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医は15名在籍しています（下記）。 ・内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2022年度実績5回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（胃腸カンファレンス、呼吸器疾患勉強会、九中循環器医療連携勉強会、南区糖尿病を考える会、救急医療勉強会、がん診療研

	修会など）を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。 ・特別連携施設は現時点では本プログラムには含まれていませんが、今後地域医療を鑑み、本プログラムにおける必要性が認められた際には追加を検討します。
認定基準 【整備基準 24/31】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ・専門研修に必要な剖検（2021 年度 12 件）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理委員会を定期開催しており、2017 年度には臨床倫理委員会を発足しました。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2022 年度実績 11 回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 5 演題以上の学会発表（2022 年度実績 8 演題、内研修医奨励賞を 1 回受賞）をしています。
指導責任者	竹迫 仁則 【内科専攻医へのメッセージ】 九州中央病院は、福岡市南区大橋液から徒歩 5 分に位置した 330 床の急性期病院であり、10 つの内科系診療科（総合内科，糖尿病・内分泌内科，循環器内科，消化器内科，呼吸器内科，肝臓内科，膵臓内科，脳神経内科，腎臓内科，心療内科）と救急部により，内科領域全般の疾患を研修できる体制が敷かれています。特に，救急搬入件数は年間 5,500 台を超えており，各専門内科の 24 時間オンコール体制の支援により，プライマリーケアから専門内科での緊急対応まで充実した研修が行えます。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 15 名，日本内科学会総合内科専門医 13 名 日本消化器病学会消化器専門医 5 名，日本循環器学会循環器専門医 3 名， 日本糖尿病学会専門医 1 名，日本腎臓学会専門医 1 名， 日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名，日本肝臓学会専門医 4 名，ほか
外来・入院患者数	外来患者 5,052 名（月平均） 入院患者 483 名（月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化器病学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本脳卒中学会認定研修教育施設 日本透析医学会教育関連施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本カプセル内視鏡学会認定指導施設

	日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本高血圧学会専門医認定施設 など
--	--

12. 福岡東医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・国立病院機構非常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（管理課職員担当）があります。 ・ハラスメント委員会を院内に設置しています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医は23名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（院長）、プログラム管理者（臨床研究部長）（ともに総合内科専門医かつ指導医））にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に行い（2022 年度実績 4 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（基幹施設：部カンファレンス、救急プライマリカンファレンス、臨床腫瘍カンファレンス、かすや腎臓セミナー、粕屋・宗像呼吸器フォーラム、医師・薬剤師・看護師のための多職種連携漢方講演会、福岡東循環器懇談会、Stroke web、粕屋三師会地域連携医療後援会、感染対策連携施設合同カンファレンス（2022 年度実績 17 回）） ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。 ・特別連携施設の専門研修は、本プログラムにはありませんが、今後地域医療の現状から追加の必要性が認められた場合にはプログラム委員会で検討します。
認定基準 【整備基準 24/31】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 11 分野以上）で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ・専門研修に必要な剖検（2022 年度実績 8 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室、臨床研究室などを整備しています。 ・臨床研修審査委員会を設置し、定期的に行い（2022 年度実績 11 回）しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に行い受託研究審査会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で学会発表をしています。
指導責任者	黒岩 三佳 【内科専攻医へのメッセージ】 福岡東医療センターは、福岡県粕屋保健医療圏の中心的な急性期病院であり、福岡医療圏・近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。

	主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 23 名、日本内科学会総合内科専門医 23 名 日本消化器病学会消化器専門 11 名、日本循環器学会循環器専門医 4 名、 日本糖尿病学会専門医 2 名、日本腎臓病学会専門医 3 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名、日本血液学会血液専門医 3 名、 日本神経学会神経内科専門医 3 名、日本アレルギー学会専門医（内科）2 名、 日本リウマチ学会専門医 1 名、日本感染症学会専門医 1 名、 日本救急医学会救急科専門医 2 名、ほか
外来・入院患者数	内科系外来患者 6,374 名（1 ヶ月平均） 内科系入院患者 6,545 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病院連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本神経学会専門医制度准教育施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定医制度認定施設 日本消化管学会認定胃腸科指導施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本心血管インターベンション学会認定研修関連施設 日本血液学会認定専門研修教育施設 など

13. 九州医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・国立病院機構九州医療センターの就業規則に基づき就業する。 1) 研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 2) 非常勤医師として労務環境が保障されている。 3) メンタルストレスに適切に対処する部署（管理課職員担当）がある。 4) ハラスメント委員会が整備されている。 5) 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。 6) 敷地近辺に職員保育所があり、利用可能である。
認定基準	・指導医が 34 名在籍している。

【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・内科専門研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2021 年度実績 医療倫理 1 回、医療安全 4 回、感染対策 4 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・合同カンファレンスを定期的に参画（2021 年度実績 3 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・CPC を定期的に開催（2021 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
認定基準 【整備基準 24/31】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、リウマチ、膠原病、感染症および救急の全ての分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療している。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で 1 演題以上の学会発表をしている。 2019 年度実績 第 325 回九州地方会 1 題、第 327 回九州地方会 2 題、第 328 回九州地方会 4 題、の計 7 題 2020 年度実績 第 332 回九州地方会 2 題 2021 年度実績 第 333 回九州地方会 2 題、第 336 回九州地方会 2 題の計 4 題
指導責任者	岡田 靖 九州医療センターは九州内の大学や協力病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。本プログラムでは初期臨床研修修了後に 3 つのコースを設け、総合力の高いリサーチマインドを持ち、サブスペシャリティにも強い質の高い内科医の育成を目指します。また単に内科医を養成するだけでなく、医療安全・倫理を重視し、患者に寄り添う医療サービスが提供でき、医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 34 名、日本内科学会総合内科専門医 39 名 日本消化器病学会消化器専門医 16 名、日本循環器学会循環器専門医 12 名、 日本内分泌学会専門医 2 名、日本糖尿病学会専門医 2 名、 日本腎臓病学会専門医 2 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 6 名、 日本血液学会血液専門医 5 名、日本神経学会神経内科専門医 5 名、 日本リウマチ学会専門医 7 名、日本感染症学会専門医 3 名、 日本救急医学会救急科専門医 2 名、日本臨床腫瘍学会専門医 4 名ほか
外来・入院患者数	内科系外来患者 7503 名（1 ヶ月平均）内科系入院患者 593 名（1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができる。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病院連携なども経験ができる。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度認定教育施設 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本老年医学会認定施設 日本肝臓学会認定施設

	日本透析医学会認定医制度認定施設 日本血液学会血液研修施設 日本神経学会教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本心療内科学会専門医研修施設 日本心身医学会研修診療施設 日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設 日本東洋医学会教育病院 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本感染症学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会高血圧認定研修施設 ステントグラフト実施施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本認知症学会教育施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 など
--	---

14. 飯塚病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境（有線 LAN，Wi-Fi）があります。 ・ 飯塚病院専攻医として労務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署およびハラスメント窓口として医務室があります。医務室には産業医および看護師が常駐しています。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています。 ・ 敷地内に 24 時間対応院内託児所，隣接する施設に病児保育室があり，利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・ 指導医は 37 名在籍しています（下記）。 ・ 内科専門研修プログラム管理委員会にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・ 基幹施設内で研修する専攻医の研修を管理する，内科専門研修委員会を設置します。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行う（2023 年実績 医療倫理 4 回，医療安全 10 回，感染対策 4 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・ CPC を定期的に行う（2024 年実績 5 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・ プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・ 特別連携施設の専門研修では，症例指導医と飯塚病院の担当指導医が連携し研修指導を行います。なお，研修期間中は飯塚病院の担当指導医による定期的な電話や訪問での面談・カンファレンスなどにより研修指導を行います。 ・ 日本専門医機構による施設実地調査に教育推進本部が対応します。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	・ カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・ 70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 45 以上の疾患群）について研修できます。

	・専門研修に必要な剖検を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会での学会発表を行っています。また、国内外の内科系学会での学会発表にも積極的に取り組める環境があります
指導責任者	本村 健太 【内科専攻医へのメッセージ】 飯塚病院内科専門研修プログラムを通じて、プライマリ・ケアから高度急性期医療、地方都市から僻地・離島の全ての診療に対応できるような能力的基盤を身に付けることができます。米国ピッツバーグ大学の教育専門医と、6年間に亘り共同で医学教育システム作りに取り組んだ結果構築し得た、教育プログラムおよび教育指導方法を反映した研修を行います。 専攻医の皆さんの可能性を最大限に高めるための「価値ある」内科専門研修プログラムを作り続ける覚悟です。将来のキャリアパスが決定している方、していない方、いずれに対しても価値のある研修を行います。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 14 名、日本内科学会総合内科専門医 47 名 日本消化器病学会消化器専門医 16 名、日本循環器学会循環器専門医 8 名 日本糖尿病学会糖尿病専門医 3 名、日本腎臓病学会腎臓専門医 4 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 11 名、日本血液学会血液専門医 2 名 日本神経学会神経内科専門医 4 名、日本アレルギー学会アレルギー専門医 1 名 日本リウマチ学会リウマチ専門医 7 名、日本感染症学会専門医 2 名ほか
外来・入院患者数	外来患者 1,660 名 (1 ヶ月平均) 入院患者 1,786 名 (1 ヶ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会 教育病院 日本救急医学会 救急科指定施設 日本消化器病学会 認定施設 日本循環器学会 研修施設 日本呼吸器学会 認定施設 日本血液学会 研修施設 日本糖尿病学会 認定教育施設 日本腎臓学会 研修施設 日本肝臓学会 認定施設 日本神経学会 教育施設 日本リウマチ学会 教育施設 日本臨床腫瘍学会 研修施設 日本消化器内視鏡学会 指導施設 日本消化管学会 胃腸科指導施設 日本呼吸器内視鏡学会 認定施設 日本呼吸療法医学会 研修施設 飯塚・潁田家庭医療プログラム 日本緩和医療学会 認定研修施設 日本心血管インターベンション治療学会 研修施設 日本不整脈学会・日本心電図学会認定 不整脈専門医研修施設 日本肝胆膵外科学会 高度技能専門医修練施設 A

	日本胆道学会指導施設 日本がん治療医認定医機構 認定研修施設 日本透析医学会 認定施設 日本高血圧学会 認定施設 日本脳卒中学会 研修教育病院 日本臨床細胞学会 教育研修施設 日本東洋医学会 研修施設 日本静脈経腸栄養学会 NST 稼動施設 日本栄養療法推進協議会 NST 稼動施設 など
--	---

15. 唐津赤十字病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・図書室とインターネット環境があります。 ・労働基準法に従い、唐津赤十字病院として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課）があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・隣接して保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が 8 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2020 年度、2021 年度の実績は、医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2020 年度 9 回、2021 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス、地域がん診療連携拠点病院公開講演会等（2020 年度実績 2 回、2021 年度実績 7 回）を 2022 年度は 9 回開催を予定し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24/31】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、代謝、腎臓、呼吸器、血液、アレルギー、感染症、救急の分野において定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。一方で内分泌、膠原病分野は症例数が若干少ない疾患群もあります。 ・なお、専門研修に必要な剖検（2020 年度実績 8 体、2021 年度 4 体）を実施しています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	・日本内科学会講演会および地方会に定期的に学会発表をしています（2020 年実績 1 回、2021 年度実績 3 回）。 ・医学研究倫理委員会を設置し、必要時に開催（2020 年度実績 13 回、2021 年度実績 21 回）しています。 ・専攻医は国内外での学会に参加、発表する機会があり、和文・英文論文の執筆も励行しています。
指導責任者	下田 慎治 【内科専攻医へのメッセージ】 唐津赤十字病院は佐賀県北部において総合診療機能を有する唯一の病院であり、地域救命救急医療センター、災害医療、緊急被ばく医療、さらに地域医療支援病院、がん診療拠点病院など多くの機能を担っています。このためほとんどの領域で多くの症例を経験できます。

	九州大学病院を基幹施設とする内科研修プログラムの連携施設として優れた内科専門医を育てたいと思っております。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 6 名, 日本内科学会総合内科専門医 12 名 日本消化器病学会指導医 3 名, 日本インターベンション治療学会指導医 1 名 日本血液学会血液指導医 3 名, 日本循環器学会循環器専門医 1 名, 日本糖尿病学会専門医 1 名, 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医 1 名,
外来・入院患者数	外来患者 9272 名 (1 ヶ月平均) 入院患者 6910 名 (1 ヶ月平均)
経験できる疾患群	・きわめてまれな疾患を除いて, 研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域, 70 疾患群の症例を経験できます。
経験できる技術・技能	・技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能は幅広く経験できます。また, 消化器内視鏡検査・治療, 冠動脈インターベンション, がんの診断・治療 (内視鏡治療, 化学療法, 放射線治療), 緩和ケアなども幅広く経験できます。
経験できる地域医療・診療連携	・急性期医療のみならず, 高齢化率が 25% を超えた当地域の背景を踏まえた病診・病病連携を学ぶことができます。 なお, 佐賀県内では佐賀県診療録地域連携システム (通称ピカピカリンク) が運用されていて ICT を活用した診療情報データの共有に關しても経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本血液学会認定血液研修施設 日本呼吸器学会関連施設 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度認定施設 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本消化器病学会専門医制度関連施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 救急科専門医指定施設 日本救急医学会救急科専門医指導施設 日本救急医学会指定施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本糖尿病学会教育関連施設 日本乳癌学会関連施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本病理学会研修登録施設 日本臨床細胞学会認定施設 日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設 など

16. 山口赤十字病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型臨床研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・常勤医師としての待遇が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（臨床心理士常勤）があります。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・内科指導医が7名在籍しており、その他指導医もいます。（下記） ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2022 年度実績 医療倫理 1 回，医療安全 2 回，感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2022 年度実績 1 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24/31】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，呼吸器，神経，膠原病，感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検（2022 年度実績 2 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。 ・倫理委員会を設置し、不定期に開催しています。 ・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があります。
指導責任者	末兼浩史 【内科専攻医へのメッセージ】 内科スタッフはチームワーク良く初期診療から専門領域まで皆協力分担して診療しており、少数精鋭で密度の濃い研修が可能です。分野間の垣根が低く、common disease から希少な難病・特定疾患まで豊富な症例の治療が専門医の指導下で経験可能で、的確な判断が要求される救急の場では一人で悩むことなくマンツーマンで上級医に相談し迅速な対応が可能です。総合病院として、すべての専門医師・医療スタッフの力を結集して、一人ひとりの患者さんの命に向き合い、他職種の医療スタッフにも恵まれ、職種を超えた NST，ICT などのチーム医療も盛んです。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 7 名，日本内科学会総合内科専門医 13 名 日本消化器病学会消化器専門医 3 名，日本循環器学会循環器専門医 2 名， 日本糖尿病学会専門医 1 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名， 日本神経学会指導医 2 名，日本神経学会専門医 2 名， ほか
外来・入院患者数	外来患者 693.7 名（1 日平均） 入院患者 291.8 名（1 日平均）
経験できる疾患群	1) 研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群のうち、領域においては、すべて幅広く経験することができます。 2) 疾患群については、一部を除き多数の通院・入院患者に発生した内科疾患について、幅広く経験することが可能です。
経験できる技術・技能	1) 内科の受け持ちは臓器別ではなく内科全般の疾患を担当しますが、各診療科の専門医がいるため、適宜相談しながら主治医として診療可能です。そのため、技術・技能評価手帳に示された内科専門医に

	必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 2) 高齢化のすすむ圏域をカバーしていることから、患者の約6割は高齢者であるので、患者の急変に対応する機会は往々に発生します。そうした事例については終末期ケアも含めた経験を積むことができます。
経験できる地域医療・診療連携	訪問看護ステーションを有し、小児から末期がん患者の訪問緩和ケアまで、広範な地域医療・診療連携を経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本腎臓学会研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本呼吸器学会認定施設 日本透析医学会認定施設 日本神経学会専門医制度准教育施設 日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育施設 日本認知症学会専門医制度教育施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 など

17. 原三信病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課職員担当）があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医、専門医等が下記の通り在籍しています。 ・教育研修委員会があり、施設内の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行う（2014 年度実績 医療倫理 3 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を開催（2019 年度実績 1 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（地元医師会勉強会窓）専攻医に受講を促し、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24/31】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、代謝、呼吸器および血液の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検（2019 年度実績 1 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2014 年度実績 1 演題）をしています。 ・臨床研究倫理審査委員会を設置し、定期的に行う（2014 年度実績 12 回）しています。 ・治験事務局を設置し、定期的に行う治験審査委員会を開催（2014 年度実績 12 回）しています。 ・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も行われています。

指導責任者	古藤和浩 【内科専攻医へのメッセージ】 福岡県内でも有数のがん治療病院として、がんの診断、抗がん剤治療（標準治療、臨床試験・治験）、緩和ケア治療、放射線治療、内視鏡検査・治療、訪問看護ステーションを設置し、終末期の在宅診療などがん診療に関連した地域医療・診療連携についても経験できます。また、多数の通院・入院患者に発生した内科疾患について、がんとの関連の有無を問わず幅広く研修を行うことができます。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 2名、日本内科学会総合内科専門医 17名 日本消化器病学会消化器専門医 5名、日本循環器学会循環器専門医 4名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 3名、日本肝臓学会専門医 1名 日本血液学会血液専門医 4名、日本腎臓学会専門医 4名ほか
外来・入院患者数	外来患者 514名（1日平均） 入院患者 289名（1日平均）
経験できる疾患群	1) 研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群のうち、全ての固形癌、血液腫瘍の内科治療を経験でき、付随するオンコロジーエマージェンシー、緩和ケア治療、終末期医療等についても経験できます。 2) 研修手帳の一部の疾患を除き、多数の通院・入院患者に発生した内科疾患について、がんとの関連の有無を問わず幅広く経験することが可能です。
経験できる技術・技能	1) 福岡県内でも有数のがん治療病院として、がんの診断、抗がん剤治療（標準治療、臨床試験・治験）、緩和ケア治療、放射線治療、内視鏡検査・治療等幅広いがん診療を経験できます。又、心血管インターベンション治療を含め幅広く内科救急医療を経験でき、技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	在宅緩和ケア治療、終末期の在宅診療などがん診療に関連した地域医療・診療連携を経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本腎臓学会研修施設 日本血液学会認定血液研修施設 非血縁者間骨髄採取・移植認定施設 非血縁者間末梢血管幹細胞採取認定施設 非血縁者間造血幹細胞移植認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本病院総合診療医学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本脈管学会認定研修関連施設 浅大腿動脈ステントグラフト実施施設 日本高血圧学会認定施設 日本透析医学会教育関連施設 福岡県肝疾患専門医療機関 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本臨床細胞学会認定施設 日本外科学会外科専門医制度修練施設 日本外科学会関連研修施設 日本消化器外科学会専門医修練施設 日本乳癌学会認定施設 日本内分泌外科学会専門医制度関連施設

	乳房エキスパンダー実施施設 日本整形外科学会専門医研修施設 日本泌尿器科学会専門医教育施設 日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設 日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関 日本医学放射線学会画像診断管理認証施設 日本放射線腫瘍学会認定施設 日本ハイパーサーミア学会認定施設 日本麻酔科学会麻酔科認定病院 日本静脈経腸栄養学会認定 NST 稼働施設 日本口腔外科学会認定准研修施設 臨床研修病院 健康保険組合連合会指定日帰りドック実施施設 人間ドック健診専門医研修施設 など
--	--

18. 福岡山王病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・常勤医として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課職員担当）があります。 ・監査・コンプライアンスはグループ本部（東京事務所）で整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が 13 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（救急隊との勉強会など）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24/31】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、消化器、循環器、代謝、呼吸器、神経および血液の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。総合内科、内科救急、感染症分野でも患者を受け入れており、研修可能です。 ・専門研修に必要な剖検を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・治験管理委員会を設置し、定期的に受託研究審査会を開催しています。 ・内科各分野の学会で学会発表を行うほか、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われており、専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があります。
指導責任者	徳松 誠 【内科専攻医へのメッセージ】 福岡山王病院は、「生命（いのち）の尊厳、生命（いのち）の平等」の理念のもとに、2009 年 5 月、国際医療福祉大学・医療法人社団高邦会グループの一員として福岡市百道浜に開院した、21 世紀の先端医療を担う総合病院です。最

	高の医師・医療スタッフによって、最新の医療機器を駆使した、質の高い医療の提供に努めています。専門性の高い不整脈の治療カテーテルアブレーションや心臓カテーテル治療、消化器内視鏡検査やてんかんの診断・治療のほか、予防医学（人間ドック）やリハビリテーションにも注力していますので、予防からリハビリまで、総合的に最良の研修が行える環境にあります。「断らない医療」を基本方針とし救急の対応にも注力しています。幅広い知識・技能を備えた内科専門医を目指して下さい。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 13 名、 日本内科学会総合内科専門医 12 名、 日本消化器病学会消化器指導医 2 名、同専門医 7 名、 日本循環器学会循環器専門医 7 名、 日本肝臓学会専門医 2 名 日本内分泌学会指導医 2 名・同専門医 2 名、 日本糖尿病学会指導医 1 名・同専門医 2 名 日本血液学会血液専門医 1 名、 日本神経学会指導医 2 名・同専門医 5 名 日本救急医学会専門医 1 名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 6,894 名（1 ヶ月平均） 入院患者 2,100 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	1) 研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群のうち、消化器、循環器、内分泌・代謝、呼吸器、血液、アレルギー（全身疾患、膠原病、感染症（ウイルス疾患）、救急等について経験できます。 2) 研修手帳の一部の疾患を除き、多数の通院・入院患者に発生した内科疾患について幅広く経験することが可能です。 3) 予防医学（人間ドック）、リハビリテーションも経験可能です。
経験できる技術・技能	1) 内科各分野の基本的診断法、内視鏡検査・治療、インターベンショナルラジオロジー、放射線診断・治療など、幅広い診療技術を経験できます。 2) 技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	地域の医療機関と連携しており、それらの医療施設との診療連携を経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本呼吸器学会認定関連施設 日本アレルギー学会専門医教育研修施設 日本感染症学会認定研修施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本大腸肛門病学会認定施設 日本病理学会研修登録施設 日本循環器学会専門医研修施設 日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本神経学会准教育施設 日本てんかん学会専門医研修施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本乳癌学会関連施設 日本ペインクリニック学会専門医指定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本麻酔科学会認定施設 日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設 など

19. 地方独立行政法人福岡市立病院機構 福岡市民病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・地方独立行政法人福岡市立病院機構有期職員として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課担当）があります。 ・セクシュアル・ハラスメントの対策等に関する委員会が機構本部に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・同一機構である福岡市立こども病院敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が 8 名在籍しています（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・本院での CPC、または九州大学形態機能病理学教室で実施される病理解剖の参加を専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24/31】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、神経、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を予定しています。
指導責任者	小柳 年正 【内科専攻医へのメッセージ】 福岡市民病院は、高度救急・高度専門医療を提供する地域の中核病院であり、九州大学病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会総合内科専門医 4 名、日本内科学会指導医 3 名、日本循環器学会専門医 2 名、日本消化器病学会指導医 2 名、日本消化器病学会専門医 2 名、日本肝臓学会指導医 1 名、日本肝臓学会専門医 1 名、日本消化管学会胃腸科指導医 1 名、日本消化管学会胃腸科専門医 1 名、日本消化器内視鏡学会指導医 1 名、日本消化器内視鏡学会専門医 1 名、日本心血管インターベンション治療学会専門医 1 名、日本神経学会指導医 1 名、日本神経学会専門医 1 名、日本腎臓学会専門医 1 名、日本糖尿病学会指導医 1 名、日本糖尿病学会専門医 1 名、日本透析医学会専門医 1 名、日本内分泌学会指導医 1 名、日本内分泌学会専門医 1 名、日本脳卒中学会指導医 1 名、日本脳卒中学会専門医 1 名、日本病態栄養学会研修指導医 1 名、日本病態栄養学会専門医 1 名
外来・入院患者数	外来患者 4,293 名（1 ヶ月平均延数） 入院患者 4,406 名（1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 8 領域の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設（新制度） 日本循環器学会認定循環器専門医研修関連施設（旧制度） 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本神経学会専門医制度教育関連施設 日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育病院 日本脳神経血管内治療学会専門医制度研修施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本病態栄養学会認定栄養管理・N S T実施施設 日本感染症学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本透析医学会専門医制度教育関連施設 日本腎臓学会研修施設

20. 松山赤十字病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	初期臨床研修制度基幹型研修指定病院。 研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 松山赤十字病院常勤医師として労務環境が保障されている。 メンタルストレスに適切に対処する部署がある。 ハラスメント委員会が整備されている。 女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されている。 敷地内に院内保育所があり，利用可能。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	指導医は 30 名在籍している。 内科専門研修プログラム管理委員会にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図る。 基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置し教育研修推進室と連携して研修の質を担保する。 以下のカンファレンス，講習会等を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与える。 ① 医療倫理・医療安全・感染対策等の講習会 ② 研修施設群合同カンファレンス ③ CPC ④ 地域参加型のカンファレンス ⑤ JMECC 日本専門医機構による施設実地調査には教育研修推進室が対応する。 特別連携施設研修では，電話や面談，カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行う。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野の少なくとも 12 分野で常時専門研修が可能な症例数を診療している。 70 疾患群のうち少なくとも 58 以上の疾患群について研修できる。

	専門研修に必要な剖検数を確保している
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備している。 医療倫理委員会を設置し、定期的に開催している。 治験管理センターを設置し、定期的に治験審査委員会を開催している。 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の発表をしている。
指導責任者	藤崎智明 【内科専攻医へのメッセージ】 松山赤十字病院は、松山医療圏の中心的な地域医療支援病院であり、当プログラムでの内科専門研修で、将来にわたり愛媛の地域医療を支える内科専門医育成を目指します。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会総合内科専門医 30 名、日本内科学会認定内科医指導医 5 名、 日本消化器病学会消化器専門医 9 名、日本循環器学会循環器専門医 6 名、 日本糖尿病学会専門医 3 名、日本腎臓病学会専門医 5 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名、日本血液学会血液専門医 6 名、 日本神経学会神経内科専門医 1 名、日本リウマチ学会専門医 3 名、 日本感染症学会専門医 3 名、日本老年医学会専門医 2 名 日本肝臓学会専門医 6 名 日本高血圧学会専門医 1 名、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 1 名 日本プライマリ・ケア連合学会認定プライマリ・ケア認定医・指導医 1 名 日本救急医学会救急科専門医 1 名、日本消化器内視鏡学会専門医 8 名 日本脳卒中学会認定脳卒中専門医 1 名、日本認知症学会認定認知症専門医 1 名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 13,027 名 (1 ヶ月平均) 入院患者 229 名 (1 日平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本老年医学会認定施設 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本神経学会教育関連施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本感染症学会認定研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設

	日本緩和医療学会認定研修施設 など
--	----------------------

21. 下関市立市民病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・地方独立行政法人下関市立市民病院正規職員医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課職員担当）があります。 ・コンプライアンスに対する院内研修を行っています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室，更衣室，シャワー室，当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり，利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が7名在籍しています（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療安全・感染管理対策講習会を定期的開催し，専攻医に年2回の受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・医療倫理講習会を定期的開催し，専攻医に受講を義務付けており，そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的開催（2021 年度実績 1 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24/31】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，血液および膠原病の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・剖検（2020 年度実績 2 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	・日本内科学会地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2021 年度実績 1 演題）をしています。 ・専攻医が学会に参加・発表する機会があります。
指導責任者	金子武生 【内科専攻医へのメッセージ】 地域の急性期病院として様々な分野の症例を経験することができます。幅広い知識・技能を備えた内科専門医を目指して下さい。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会総合内科専門医 4 名， 日本消化器病学会消化器専門医 1 名，日本循環器学会循環器専門医 3 名， 日本糖尿病学会専門医 1 名，日本リウマチ学会リウマチ専門医 1 名， 日本感染症学会感染症専門医 1 名，日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 1 名， 日本血液学会血液専門医 1 名，日本腎臓学会腎臓専門医 1 名
外来・入院患者数	内科外来患者 39,357 名/年 内科入院患者 2008 名/年
経験できる疾患群	1) 研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群のうち，上記の内科症例を専門医の指導のもと経験できます。 2) 専門医のいない疾患に対しても指導医の指導のもと経験することが可能です。
経験できる技術・技能	1) 内科疾患全般の診断，治療，超音波検査・内視鏡検査・治療・心臓カテーテル検査・治療など専門的な検査，治療など幅広い診療を経験できます。 2) 技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	なし
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会教育関連施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本感染症学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設

	日本リウマチ学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定施設	日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器病学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設
--	---	---

22. 大分県立病院

認定基準 1) 専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・大分県非常勤医師として「大分県病院局職員就業規程」及び「大分県病院局職員服務規程」に従います。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。 ・総括的評価を行う際、専攻医および指導医は専攻医指導施設に対する評価も行い、その内容は大分県立病院内科専門研修プログラム管理委員会に報告されるが、そこには労働時間、当直回数、給与など、労働条件についての内容が含まれ、適切に改善を図ります。
認定基準 2) 専門研修プログラムの環境	1) 内科領域の救急対応、2) 最新のエビデンスや病態理解・治療法の理解、3) 標準的な医療安全や感染対策に関する事項、4) 医療倫理、医療安全、感染防御、臨床研究や利益相反に関する事項、5) 専攻医の指導・評価方法に関する事項、などについて、以下の方法で研鑽します。 ①定期的（毎週1回程度）に開催する各診療科での抄読会 ②医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習会（基幹施設 2022 年度実績 3 回）※内科専攻医は年に2回以上受講します。 ③CPC（基幹施設 2022 年度：解剖症例が対象の CPC2 回） ④JMECC 受講 ⑤内科系学術集会 ⑥各種指導医講習会/JMECC 指導者講習会 など
認定基準 【整備基準 24/31】 3) 診療経験の環境	Subspecialty 領域に拘泥せず、内科として入院患者を順次主担当医として担当します。主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	大分県立病院内科専門研修施設群は基幹・連携病院のいずれにおいても、 ①内科系の学術集会や企画に年2回以上参加します（必須）。※日本内科学会本部または支部主催の生涯教育講演会、年次講演会、CPC および内科系 Subspecialty 学会の学術講演会・講習会を推奨します。 ②経験症例についての文献検索を行い、症例報告を行います。 ③臨床的疑問を抽出して臨床研究を行います。 ④内科学に通じる基礎研究を行います。 以上を通じて、科学的根拠に基づいた思考を全人的に活かせるようにします。内科専攻医は学会発表あるいは論文発表は筆頭者2件以上行います。 なお、専攻医が、社会人大学院などを希望する場合でも、大分県立病院内科専門研修プログラムの修了認定基準を満たせるようにバランスを持った研修を推奨します。
指導責任者	柴富 和貴 【内科専攻医へのメッセージ】 本プログラムは、大分県中部医療圏の中心的な急性期病院である大分県立病院を基幹施設として、大分県中部医療圏・近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を経て大分県の医療事情を理解し、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練され、基本的臨床能力獲得後は必要に応じた可塑性のある内科専門医として大分県全域を支える内科専門医の育成を行います。
指導医数	24人

(常勤医)	
外来・入院患者数	診療患者数 888 名 (1 日平均)、入院患者数 421 名 (1 日平均)
経験できる疾患群	基幹施設である大分県立病院での 2 年間と専門研修施設群での 1 年間 (専攻医 3 年修了時) で、「研修手帳 (疾患群項目表)」に定められた 70 疾患群のうち、少なくとも通算で 56 疾患群、160 症例以上を経験し、J-OSLER に登録できます。可能な限り、「研修手帳 (疾患群項目表)」に定められた 70 疾患群、200 症例以上の経験を目標とします。
経験できる技術・技能	大分県立病院内科専門医研修プログラムでは、症例をある時点で経験するということだけではなく、主担当医として、入院から退院 (初診・入院～退院・通院) まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。そして、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標への到達とします。
経験できる地域医療・診療連携	基幹施設である大分県立病院は、大分県中部医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核であります。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディジーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所 (在宅訪問診療施設などを含む) との病診連携も経験できます。
学会認定施設 (内科系)	

23. 宮崎県立宮崎病院

認定基準 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・宮崎県立病院非常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります (職員健康プラザ等)。 ・ハラスメントの防止等に関する相談窓口の設置及び相談員を配置しています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医は 9 名在籍しています (下記)。 ・内科専門研修プログラム管理委員会 (統括責任者 (副院長・内科主任部長)、プログラム管理者 (内科医長) (ともに総合内科専門医かつ指導医) にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センター (2021 年度予定) を設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催 (2014 年度実績 7 回) し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催 (2017 年度予定) し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催 (2015 年度実績 5 回) し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講 (2015 年度開催実績 0 回: 受講者 0 名) を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。当院では将来的な自己開催に向けて準備中ですが、それまでは他施設での JMECC 資格受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます。また当院にディレクターを招聘しての JMECC 開催も予定しています。

	・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センター（2021 年度予定）が対応します。 ・特別連携施設での専門研修では、スカイプなどによる週 1 回の宮崎県立宮崎病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。
認定基準 【整備基準 24/31】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます（上記）。 ・専門研修に必要な剖検（2014 年度実績 10 体、2013 年度 6 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室を整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2015 年度実績 7 回）しています。 ・治験管理室を設置し、治験事務局より定期的に外部審査会を開催（2015 年度実績 12 回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2015 年度実績 5 演題）をしています。
指導責任者	眞柴晃一 【内科専攻医へのメッセージ】 宮崎県立宮崎病院は、宮崎東諸県医療圏のみならず、宮崎県全県下における中心的な高次機能・専門病院・急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核です。したがって高度な急性期医療、より専門的な内科診療などの診療が経験できます。各 Subspecialty のエキスパートがそろっていますので、将来 Subspecialty 専門医の取得につながる内科研修が可能です。また各種臨床試験、臨床研究も多く取り組んでおり、臨床研究、基礎的研究の基本を身につけることが可能で、将来的な大学院での研究者への道も提供できます。 いっぽうで、当院は開設約 100 年の歴史を有し地域に根ざした第一線の病院でもあり、内科救急疾患、コモンディジーズの診療経験、および超高齢化社会を反映し複数の問題を持った患者の全身管理の経験もできます。また、地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との、多職種が関わる病診連携も経験でき、地域基幹病院でのホスピタリストや、地域医療の中での総合内科的診療に強い医師になることも出来ます。 当院での研修を活かし、幅広い知識・技能を備えた内科専門医を目指して下さい。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 9 名 日本内科学会総合内科専門医 15 名 日本消化器病学会消化器専門医 5 名 日本循環器学会循環器専門医 5 名、 日本糖尿病学会専門医 2 名 日本腎臓病学会専門医 3 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名 日本血液学会血液専門医 4 名、 日本神経学会神経内科専門医 1 名 日本アレルギー学会専門医（内科）0 名、 日本リウマチ学会専門医 4 名 日本感染症学会専門医 5 名、 日本救急医学会救急科専門医 3 名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 9,840 名（1 ヶ月平均） 入院患者 234 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。

経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会関連施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本感染症学会認定教育施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本高血圧学会専門医認定施設 など

24. 門司掖済会病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスにはカウンセリング委員、および産業医が対応します。 ・女性医師スタッフも複数勤務しており、院内サークルでお茶、バトミントン、テニス、アンサンブルなどが活動しています。 ・更衣室、当直室が整備されています。 ・近隣に一般保育施設、病児保育施設があります。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が6名在籍しています（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2022 年度実績 医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスに定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・剖検例では CPC を開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（地元医師会合同勉強会、多地点合同メディカル・カンファレンスを含む）を積極的に開催または関与し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24/31】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち少なくとも 10 分野で専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検（2022 年度実績 1 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】	- 日本内科学会講演会あるいは同地方会での学会発表を推奨、支援しています（2021 年度実績 1 演題）。 ・倫理委員会を設置し、必要時に開催しています。

4) 学術活動の環境	・専攻医が国内の学会に参加・発表する機会があります。
指導責任者	藤井健一郎 【内科専攻医へのメッセージ】 内科教育関連病院だけでなく日本高血圧学会認定研修施設となっており、高血圧に関するすべてに対応できます。また腎センターを設置しており、腎・透析専門医 2 名、臨床工学技士、看護師で構成され、透析患者数は血液透析・腹膜透析を合計し 120 名前後です。腎移植を除く腎疾患のすべてに対応できます。また、糖尿病専門医との連携により透析予防にも努めています。 胃腸内科では 3 名の専門医が内視鏡検査・治療を行い、外科とのスムーズな連携をしています。外科は消化管、乳腺、呼吸器疾患にも対応しており、診断から手術、ストマケア、化学療法、緩和療法まで一貫して診ています。 歯科・口腔外科医は 2 名体制で、地域病院・診療所との連携にも重点を置いており、口腔外科を中心とした歯科治療、外傷や炎症などの救急にも対応しています。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 6 名、日本内科学会総合内科専門医 6 名、日本腎臓学会専門医 2 名、日本消化器病学会消化器専門医 2 名、日本循環器学会循環器専門医 2 名、日本糖尿病学会専門医 3 名、日本高血圧学会専門医 2 名
外来・入院患者数	外来患者 5,000 名 (1 ヶ月平均) 入院患者 150 名 (1 ヶ月平均)
病床	199 床 (急性期 144 床、地域包括ケア 55 床)
経験できる疾患群	研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域、70 疾患群のうち、多数の通院・入院患者に発生した内科疾患について、幅広く経験することが可能です。高齢者が多く、多病を有する患者が多いので、総合的診療の実践が可能です。
経験できる技術・技能	1) 技術・技能研修手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を広く経験できます。 複数の疾患を併せ持つ高齢者が多いので、検査・治療の適応、安全確認などに注意しながら実施していただきます。 2) 終末期ケア、緩和ケア、認知症ケア、褥瘡ケア、廃用症候群のケア、嚥下障害を含めた栄養管理、リハビリテーションに関する技術・技能を総合的に研修することが可能です。
経験できる地域医療・診療連携	急性期病床と地域包括ケア病床を有しており、急性期医療から在宅復帰へのスムーズな移行を支援しています。 在宅緩和ケア治療、終末期の在宅診療などががん診療に関連した地域医療・診療連携を経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本高血圧学会専門医認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会教育関連施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化器学会認定施設 日本外科学会外科専門医制度修練指定施設 日本消化器外科学会専門医制度関連施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本麻酔科学会麻酔科認定病院 歯科・口腔外科臨床研修施設

25. 独立行政法人 国立病院機構 別府医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・国立病院機構期間医師として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課職員担当）があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が 11 名在籍しています（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス（2017 年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24/31】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野全領域で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検（2015 年度実績 2）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2015 年度実績 3 演題）をしています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2015 年度実績 11 回）しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2014 年度実績 12 回）しています。 ・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われています。
指導責任者	末永康夫 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は、大分県北の中核病院で、幅広い患者層が来院します。ほぼ全科がそろっておりあらゆる疾患に対応することができます。将来の Subspecialty を見据えた Hospitalist としての技術を磨くことができます。また、当院は院外の研修、学会での発表や論文作成にも力を入れており、常に学び、臨床の成果を発表できる内科医を養成します。 当院は 20 名程度の研修医を擁しており、後輩たちを指導することにより知識・スキルを更にしっかりと自分のものにすることができますようになります。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 11 名、日本内科学会総合内科専門医 5 名 日本内分泌代謝科専門医 1 名、透析専門医 1 名、腎臓専門医 1 名、 神経内科専門医 1 名、消化器病専門医 4 名、肝臓専門医 2 名、 消化器内視鏡専門医 1 名、日本循環器学会循環器専門医 2 名、 リウマチ専門医 2 名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 9,840 名（1 ヶ月平均） 入院患者 234 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	1) 研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群のうち、全てを経験できます。
経験できる技術・技能	1) 技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 2) ほぼすべての科に専門医がいますので、総合内科のみならず Subspecialty の技術についても更に身に着けることができます。

経験できる地域医療・診療連携	ドクターヘリで来院する超急性期から、地域に根ざした医療、病診・病病連携など幅広い地域医療を経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本老年医学会認定施設 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本神経学会教育関連施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本高血圧学会専門医認定施設 など

26. 九州労災病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・当院非常勤医師として労働環境が保障されています。 ・院内に勤労者メンタルヘルスセンターがあり、年1回のストレスチェック、及び希望者には随時産業医による面談を行なっています。 ・セクハラ・パワハラ委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できる様に、更衣室、当直室が整備されています。 ・近隣に保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・倫理、医療安全、感染対策の講演会を毎年それぞれ1回、2回、2回開催し、全職員の聴講（DVD、eラーニング含む）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・内科カンファレンス、がんサボードを隔週で開催し、出席を義務付け、そのための時間的余裕を与えています。 ・病理医3名常勤しており、専門研修に必要な剖検を行ない（2023年度1件）、CPCを定期的に開催し、参加のための時間的余裕を与えています。 ・地域参加型のカンファレンス2回を定期的に開催し、参加のための時間的余裕を与えています。
認定基準 【整備基準 24/31】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、消化器、循環器、内分泌、代謝、血液、神経、膠原病の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年数演題、学会発表しています。（2021年度2件） ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（年12回）しています。 ・治験管理室を設置し、治験審査委員会を定期的に開催（年12回）しています。

	・専攻医が国内外の学会に参加・発表する機会があり，和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も行われています．
指導責任者	田中誠一 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は昭和 24 年に設立された全国で最初の労災病院です．北九州医療圏と京築医療圏の境界に位置しており，両医療圏と緊密な連携を取りながら，豊富な症例を紹介して頂いています．また，災害拠点病院として急性期医療にも力を入れており，脳卒中や循環器の急性期にも対応しています．さらに地域がん診療連携拠点病院にも指定されており，幅広いがん診療を経験できます．
指導医数 (常勤医)	日本内科学会 総合内科専門医 8 名， 日本消化器病学会 消化器専門医 4 名，指導医 1 名 日本消化器内視鏡学会 消化器内視鏡専門医 3 名，指導医 1 名 日本肝臓学会 肝臓専門医 1 名，指導医 1 名 日本膵臓学会 指導医 1 名 日本循環器学会 循環器専門医 1 名 日本糖尿病学会 糖尿病専門医 3 名，指導医 2 名 日本内分泌学会 内分泌専門医 1 名 日本血液学会 血液専門医 1 名，指導医 1 名 日本リウマチ学会 リウマチ専門医 1 名 日本脳神経内科血管内治療学会 専門医 2 名 日本神経学会 専門医 2 名 指導医 1 名 日本老年医学会 老年病専門医 1 名，指導医 1 名 日本脳卒中学会 脳卒中専門医 1 名，指導医 1 名
外来・入院患者数	内科外来患者 214.9 名（総外来患者数 785.5 人）（1 日平均） 内科入院患者 122.0 名（総入院患者数 352.4 人）（1 日平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，内科 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます．
経験できる技術・技能	内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます．
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療安全だけでなく，超高齢社会に対応した，地域に根ざした医療，病診・病院連携などを経験できます．
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育関連施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本脳卒中学会専門医認定施設 日本脳卒中学会一次脳卒中センター 日本老年医学会認定施設 日本神経学会専門医制度准教育施設 日本消化器病学会専門医認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本呼吸器学会関連施設 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医関連認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本集中治療医学会専門医研修施設 日本救急医学会救急科専門医施設 日本病理学会監修登録施設 日本臨床細胞学会認定施設 日本臨床細胞学会教育研修施設 日本乳癌学会専門医制度関連施設

	日本がん治療認定医機構認定研修施設 など
--	-------------------------

27. 福岡和白病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・メンタルストレスに適切に対処する臨床心理士が定期的に来院しています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように休憩室、更衣室、当直室が整備されています。 ・提携院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が6名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、全ての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表をしています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に行っています。 ・治験管理室を設置し、定期的に行っています。 ・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われています。
指導責任者	有田 武史 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は福岡市内でも屈指の救急指定病院であり、365日24時間、重症例にいたるまで常時救急対応可能であり、幅広く急性期疾患を経験できます。また、当院は地域診療拠点病院として慢性疾患も近隣の医療機関と連携しながら診療を進めており、地域がん診療連携拠点病院として手術、薬物療法、放射線治療にも積極的に取り組んでいます。内視鏡ではESDを含めて症例多数あり、循環器内科領域では療はPCI（経皮的冠動脈形成術）、TAVI（経皮的弁置換術）、EVT（血管内末梢血管治療）、心原性ショックに対するインペラ（補助人工心臓）など高度で先進的な治療を含め幅広く対応しています。当院での研修では、豊富な症例をもとに、より専門的な内科診療の診療経験だけでなくコモンディーズや超高齢社会を反映した複数の疾患・病態を持った患者の診療経験ができます。
指導医数 (常勤医)	・日本内科学会指導医6名 ・日本内科学会総合内科専門医10名 ・日本消化器内視鏡学会専門医6名 ・日本消化器病学会専門医7名 ・日本循環器学会専門医7名 ・日本呼吸器学会専門医1名 ・日本糖尿病学会指導医1名 ・日本血液学会専門医1名 ・日本臨床腫瘍学会指導医1名

	・日本不整脈心電学会専門医 1 名 ほか
外来・入院患者数	外来延患者 160,926 名 入院患者 9,372 名
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群のうち、急性期症候を示すほとんどの領域のほか、慢性疾患、腫瘍性疾患において診断、治療の経験が可能です。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	在宅緩和ケア治療、終末期の在宅診療などがん診療に関連した地域医療・診療連携を経験できます。
学会認定施設（内科系）	・日本専門医機構 内科領域専門研修プログラム ・日本消化器内視鏡学会専門医指導施設 ・日本がん治療認定医機構認定研修施設 ・地域がん診療連携拠点病院 ・日本臨床腫瘍学会認定研修施設（連携施設） ・日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 ・日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設 ・日本心血管インターベンション治療学会 IVL システム施設 ・日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 ・日本血液学会認定専門研修教育施設 ・日本消化器病学会専門医制度認定施設 ・日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医認定施設 ・日本心エコー図学会認定心エコー図専門医制度研修施設 ・日本肝臓学会認定施設 ・日本呼吸器療法医学会呼吸器療法専門研修施設 ・潜因性脳梗塞に対する卵円孔開存閉鎖実施施設 ・日本呼吸器学会呼吸器内科領域専門研修制度連携施設 など

28. 国立病院機構福岡病院

認定基準【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・国立病院機構の非常勤医師等として勤務環境が整備されています。 ・メンタルヘルスに適切に対処する部署（安全衛生委員会）があります。 ・ハラスメントに関する相談等に対応するため、就業規則に基づきハラスメント相談窓口が設置されています。 ・国立病院機構の規定に基づき、コンプライアンス担当者が設置されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が 13 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る予定です。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（年 4 回）←2014 年度実績（医療倫理=0 回、医療安全=2 回、感染対策=2 回） ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2015 年度実績 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（2014 年度実績福岡南呼吸器検討会 5 回、筑紫呼吸器検討会 4 回、南区合同症例検討会 3 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。

認定基準【整備基準 24/31】 3) 診療経験の環境	・ カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、呼吸器およびアレルギー、膠原病の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・ 専門研修に必要な剖検（2014 年度実績 2 体）を行っています。
認定基準【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	・ 臨床研究に必要な図書室、・ 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2014 年度実績 1 演題）をしています。 ・ 倫理委員会を設置し、定期的開催（2014 年度実績 11 回）しています。 ・ 治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2014 年度実績 12 回）しています。 ・ 専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行う予定です。
指導責任者	吉田 誠 【内科専攻医へのメッセージ】 国立病院機構福岡病院は、全国に 144 ある国立病院機構病院の一翼を担っています。その中にあって、福岡病院は個性あふれる病院を目指しています。専門性の高さ、患者さんにやさしい病院スタッフの育成、職員同士の切磋琢磨する気風、臨床研究の風土などを特徴とする病院です。特に呼吸器・アレルギー、膠原病リウマチは多くの学会専門医を擁しています。 呼吸器内科は急性期から慢性期までの、結核を除くほとんどの呼吸器疾患を対象としており、ことに喘息・COPD 診療、呼吸リハビリテーション、睡眠呼吸障害医療、禁煙外来などが出色です。アレルギー診療はアレルギー科、皮膚科、耳鼻咽喉科が連携して、喘息、食物アレルギー、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、花粉症などを総合的に診療しています。また福岡県の花粉情報を担当しています。 膠原病内科（リウマチ科）は、関節リウマチの新薬が続々登場して治療内容が激変しており、関節変形を起こさない治療を目指しています。平成 24 年 4 月から循環器内科を新設し、慢性心不全の診療や心臓リハビリテーションを開始しました。平成 26 年 11 月、新しく一般病棟の新築が完成し、診療、療養環境が一新いたしました。さらに診療の充実度を増していこうと職員一同頑張っております。 このユニークで、内科症例数も多い当院での研修はきっと専攻医の先生方にとって大変魅力的で役にたつと考えております。
指導医数（常勤医）	日本内科学会総合内科専門医 5 名、日本循環器学会循環器専門医 1 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 13 名、感染症学会指導医 1 名
外来・入院 患者数	外来患者 6,026 名（1 ヶ月平均） 入院患者 8,680 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	1). 研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群のうち、呼吸器、アレルギー、膠原病、感染症を経験でき呼吸不全緩和ケア治療、終末期医療等についても経験できます。 2). 多数の通院・入院患者に発生した内科疾患についてきわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある呼吸器、アレルギー、膠原病、感染症の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	1). 日本屈指の呼吸器アレルギー疾患専門病院において、診断、治療（標準治療、臨床試験・治験）、緩和ケア治療、気管支内視鏡検査・治療など幅広い診療を経験できます。 2). 技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	福岡南呼吸器検討会や筑紫呼吸器検討会など、疾患の検討会を開催し、地域の先生方との交流をはかることによって、密接な連携が可能となっています。
学会認定施設（内科系）	日本呼吸器学会認定施設、日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設、日本アレルギー学会認定教育施設（内科）、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本リウマチ学会教育施設、日本心身医学会研修診療施設、日本感染症学会研修施設、日本睡眠学会認定医療機関、日本静脈経腸栄養学会 N S T 稼働施設、臨床研修指定病院（呼吸器疾患・免疫アレルギー疾患）、臨床修練指定病院（呼吸器疾患・免疫アレルギー疾患）

29. 白十字病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ・ハラスメント委員会が設置されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があります。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が 12 名在籍しています。 ・研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2022 年度 1 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスへ定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（2022 年度 6 回）を定期的に開催し、専攻医に受講の時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24/31】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、救急、消化器、循環器、呼吸器、感染症、代謝、腎臓および神経の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検（2022 年度 1 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に学会発表（2021 年度 1 題、2022 年度 1 題）。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2022 年度 3 回）しています。 ・治験審査委員会を設置し、治験事務局にて治験を管理しています。 ・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、国内学会には年 2 回の参加費用を補助し、発表者には別枠で経費の補助があります。
指導責任者	岩瀬 正典 【内科専攻医へのメッセージ】 福岡・糸島医療圏の西部に位置する当院ではコモンかつフレッシュな内科疾患を多数経験できます。1 例 1 例の症例を深く掘り下げることに加え、場数を多く踏むことにより将来の内科医としての自信をつけることができます。また、院内保育施設に加えて、育児のための時短就業体制もあります。当院は九大移転などで急速に発展する福岡市西区の唯一の地域医療支援病院であり、地域医療に貢献できる全人的医療を実践できる内科専門医の育成を目指します。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 12 名、日本内科学会総合内科専門医 9 名、日本脳卒中学会専門医 6 名、日本腎臓学会専門医 4 名、日本神経学会専門医 3 名、日本糖尿病学会専門医 3 名、日本消化器病学会専門医 3 名、日本消化器内視鏡学会専門医 3 名、日本循環器学会専門医 2 名、日本呼吸器学会専門医 1 名、日本老年学会専門医 1 名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 平均 298 名/日 入院患者 平均 242 名/日
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、当法人内の在宅診療部門と連携し在宅診療、臓器にとらわれず全身を診れる総合内科診療を経験できます。

30. 国家公務員共済組合連合会千早病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・非常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、当直室が整備されています。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が 6 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を随時開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2022 年度実績 1 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24/31】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、代謝、膠原病および血液の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検（2021 年実績 1 体、2022 年度実績 1 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。 ・倫理委員会を設置し、随時開催しています。 ・治験管理室を設置し、随時受託研究審査会を開催しています。 ・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われています。
指導責任者	副院長 原田 直樹 【内科専攻医へのメッセージ】 福岡市東区では九州大学病院を除いた唯一の公的病院であり、東区の医療機関・クリニックとの連携が強固で、信頼されています。消化器、循環器、代謝、膠原病、血液の分野の多数の通院・入院患者があり、幅広く研修を行うことができます。幅広い知識・技能を備えた内科専門医を目指して下さい。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 4 名、日本内科学会総合内科専門医 8 名 日本肝臓学会専門医 2 名、日本消化器病学会消化器専門医 3 名、 日本内視鏡学会専門医 1 名、日本循環器学会循環器専門医 1 名、 日本心血管インターベンション学会指導医 1 名、 日本超音波医学会専門医・指導医 1 名、日本血液学会血液専門医 2 名、ほか
外来・入院患者数	内科循環器科外来患者 延べ 2472 名（1 ヶ月平均） 内科循環器科入院患者 延べ 1360 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	研修手帳 15 領域の一部の疾患を除き、多数の通院・入院患者に発生した内科疾患について幅広く経験することが可能です。
経験できる技術・技能	1) 腹部超音波検査ならびに超音波下肝生検、肝癌治療 2) 消化管内視鏡検査ならびに内視鏡下治療 3) 心臓超音波検査、心嚢穿刺、胸腔穿刺、心臓カテーテル検査ならびに治療、ペースメーカー手術、中心静脈穿刺、CHDF 4) 腹部血管造影下治療 5) 骨髄穿刺、など実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

経験できる地域医療・診療連携	地域医療・診療連携を経験できます
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本血液学会認定血液研修施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会関連施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本循環器学会認定循環器研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本乳癌学会認定医専門医制度研修施設 など

31. 仲原病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課他職員 3 名と院外学識者 1 名で構成）があります。 ・医局に当直室が 2 室あり、シャワー、ベットが整備されています。 ・職員駐車場（病院で契約の院外駐車場）があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が 6 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療安全・感染対策講習会を定期的に行う（2015 年度実績 医療安全 2 回、感染対策 2 回）しています。 ・各職種参加による総合症例カンファレンスが毎週行われており、疾患紹介や治療方針等について、職種横断的な検討、評価ができます。 ・研修施設群合同カンファレンス（2017 年度予定）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（粕屋中南部消化器病研究会 2015 年度実績 2 回）を定期的に行い、地域開業医との情報交換を行っています。
認定基準 【整備基準 24/31】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器（一部）、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	・学会出張の場合は、病院から年 2 回（中央 1 回、地方 1 回）の出張費支給があります。 ・倫理委員会を設置し、必要に応じて開催（2015 年度実績 1 回）しています。 ・治験審査委員会を設置し、必要に応じて受託研究審査会を開催しています。 (2015 年度実績 0 回)

指導責任者	大 神 吉 光 【内科専攻医へのメッセージ】 地域の基幹病院として、胃・腸・肝・胆・膵疾患をはじめとした数多くの疾患群や人工透析治療、内科的ペインクリニックも経験ができ、さらに各種がんの診断、抗がん剤治療（標準治療、臨床試験・治験）、緩和ケア治療、内視鏡検査・治療、血管造影、インターベンショナルラジオロジーに加え、緩和ケアや終末期なども含めたがん診療に関連した地域医療・診療連携についても経験できます。 また、多数の通院・入院の患者に発生した内科疾患について、幅広く研修を行うことができます。 当院での研修を活かし、今後さらに重要性が増すがん診療を含め、幅広い知識・技能を備えた内科専門医を目指して下さい。
指導医数 （常勤医）	実人数6名 （下記内訳 … 再掲） ・日本内分泌学会指導医 1名 ・日本内科学会総合内科専門医 2名 ・日本消化器病学会指導医 2名、専門医 1名 ・日本糖尿病学会指導医 2名 ・日本肝臓学会肝臓専門医 1名 ・日本腎臓学会指導医 1名 ・日本消化器内視鏡学会指導医 2名
外来・入院患者数	外来患者 163.2名（1ヶ月平均） 入院患者90名（1ヶ月平均）
経験できる疾患群	1) 研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群のうち、数多くの固形癌、血液腫瘍の内科治療を経験でき、付随するオンコロジーエマージェンシー、緩和ケア治療、終末期医療等についても経験できます。 2) 研修手帳の一部の疾患を除き、多数の通院・入院患者に発生した内科疾患について、がんとの関連の有無を問わず幅広く経験することが可能です。
経験できる技術・技能	1) 地域医療の基幹病院として、がんの診断、抗がん剤治療（標準治療、臨床試験・治験）、緩和ケア治療、内視鏡検査・治療、インターベンショナルラジオロジーなど、幅広いがん診療を経験できます。 2) 技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる 地域医療・診療連携	がん診療に関連した地域医療・診療連携を経験できます。
学会認定施設 （内科系）	九州大学病院臨床研修病院 九州大学医学部関連施設 九州大学医学部教育施設 日本消化器病学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本外科学会認定関連施設 日本消化器外科学会認定関連施設 日本がん治療認定医機構 認定研修病院 日本病態栄養学会認定栄養管理・NST実施施設 九州大学病院臨床研修病院群協力型臨床研修病院 福岡県肝疾患専門医療機関 肝炎ウィルス初期治療専門医療機関 検診精密検査実施医療機関（胃癌、大腸癌、肝臓癌、乳癌、肺癌、骨粗鬆症） ※ 日本消化器内視鏡学会指導施設 申請中

32. 国立病院機構大牟田病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課職員担当）があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が6名在籍しています（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2021年度実績 医療安全2回、感染対策2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的開催（2021年度実績2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24/31】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、呼吸器および神経の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検（2021年度実績4体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表をしています。 ・倫理委員会を設置し、定期的開催（2021年度実績8回）しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2021年度実績7回）しています。 ・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われています。
指導責任者	川崎雅之 【内科専攻医へのメッセージ】 我々の病院は呼吸器科と神経内科に特化した病院です。呼吸器科は結核を含めた呼吸器領域すべての疾患を扱っており急性期から慢性期の疾患に多とする診療を行っています。呼吸器外科と密接なカンファレンスを行っています。神経内科は神経内科疾患全般に亘る外来診療、神経難病・筋ジストロフィーを中心とした入院診療を行っています。また認知症医療センターの指定を受け、認知症の鑑別診断、治療、ケア指導や医師向け研修などを行っています。高齢化とともに今後増加する呼吸器疾患、神経疾患に対する内科研修が可能です。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医6名、日本内科学会総合内科専門医5名 日本呼吸器学会呼吸器専門医7名、日本神経内科専門医6名 日本循環器学会循環器専門医1名、
外来・入院患者数	外来患者1776名（1ヶ月平均） 入院患者330名（1ヶ月平均）
経験できる疾患群	1) 研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群のうち、呼吸器内科、神経内科の2領域のすべての疾患群の経験が可能です。
経験できる技術・技能	1) 呼吸器内科：気管支鏡、胸腔ドレナージ、抗がん剤投与、緩和ケア、感染管理など 2) 神経内科：針筋電図、誘発脳波などの生理学的検査、高次脳機能検査
経験できる地域医療・診療連携	訪問診療医と連携した在宅医療、神経難病・筋ジストロフィーの在宅人工呼吸管理など
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定教育関連病院 日本呼吸器学会認定施設

	日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本神経学会認定教育施設 日本認知症学会教育施設 など
--	---

33. 西福岡病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・女性専攻医でも安心して勤務できるように女子更衣室、女子シャワー室が整備されています。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が9名在籍しています（下記）。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24/31】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、呼吸器の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	・治験管理室を設置し、定期的に治験審査委員会を毎月実施しています。 ・専攻医が国内の学会に参加・発表する機会があります。
指導責任者	原田泰子 【内科専攻医へのメッセージ】 福岡市内で唯一結核病棟がある医療機関です。 結核の診断、治療を経験することができます。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会総合内科専門医 3名 日本呼吸器学会指導医 1名 日本呼吸器学会専門医 3名 日本結核病学会結核・抗酸菌指導医 1名 日本化学療法学会抗酸菌薬臨床試験指導者 1名 日本老年医学会老年病専門医 1名 日本消化器病学会専門医 3名 日本消化器内科内視鏡学会認定指導医 1名 日本消化器内視鏡学会認定専門医 1名 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 1名 日本糖尿病学会専門医 1名 日本循環器学会循環器専門医 1名 ほか
外来・入院患者数	外来患者 206.8名（1ヶ月平均） 入院患者 179.1名（1ヶ月平均）
経験できる疾患群	結核病棟を有し、結核の診断治療を経験できます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	地域の人々に信頼される納得と安心の医療・介護・福祉の提供を目指すことを法人理念に掲げており、結核の入院受け入れやその他の地域医療・診療連携を経験できます。

学会認定施設 (内科系)	日本呼吸器学会認定施設 日本消化器病学会
-----------------	-------------------------

34. 福岡ゆたか中央病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が2名在籍しています（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2021 年度実績、医療安全 12 回、感染対策 12 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス（2022 年度予定）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24/31】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、代謝、呼吸器および膠原病の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検（2020 年度実績 1 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。 ・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われています。
指導責任者	松本 高宏 【内科専攻医へのメッセージ】 多数の通院・入院患者に発生した内科疾患について、幅広く研修を行うことができます。 幅広い知識・技能を備えた内科専門医を目指して下さい。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 1 名、日本内科学会総合内科専門医 1 名 日本消化器病学会消化器専門医 2 名、日本循環器学会循環器専門医 1 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名、日本リウマチ学会指導医 1 名、日本消化器内視鏡学会指導医 1 名、日本呼吸器内視鏡学会専門医 1 名、総合診療専門研修指導医（プライマリ・ケア認定）1 名
外来・入院患者数	総外来患者 11,201 名（実数） 総入院患者 1,910 名（実数）
経験できる疾患群	研修手帳の一部の疾患を除き、多数の通院・入院患者に発生した内科疾患について、幅広く経験することが可能です。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	
学会認定施設 (内科系)	日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設 日本内科学会教育関連病院

35. 前田病院

認定基準 1) 専攻医の環境	・院内でのインターネット環境（端末を個人支給および Wi-Fi 環境）があります。 ・前田病院の常勤医師として労務環境が保障されます。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康サポート室：産業カウンセラー、心理カウンセラーを配置）が設置されています。 ・ハラスメントに対応するハラスメント委員会が院内に設置されています。 ・女性専攻医が勤務できるように、当直室、シャワー室、更衣室、休憩室が整備されています。
認定基準 2) 専門研修プログラムの環境	・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本内科学会が企画する CPC の受講を専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスは佐賀県医師会が定期的に開催しており、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24/31】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、腎臓、内分泌代謝および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。救急の分野については、高度ではなく、一次・二次の内科救急疾患が中心となります。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を予定しています。
指導責任者	前田篤宏 【内科専攻医へのメッセージ】 慢性腎臓病(CKD)患者数は1330万人で15歳以上の人口の8人に1人。透析患者数は33万人で15歳以上の人口の330人に1人に当たります。どの診療科に進まれてもCKD・透析患者を診療する機会が多いと思われるので、当院での仕事を通してCKD・透析患者の特性と対処法を習得して頂ければ幸いです。 当院では透析の予防に最も力を入れており、糖尿病専門医2名、腎臓専門医3名、透析専門医4名・管理栄養士3名・運動トレーナー3名の知恵を出し合って、血糖・血圧・食事・運動管理を中心にCKD対策を行っています。 透析については6時間透析患者264名、オーバーナイト透析患者31名、腹膜透析患者4名、在宅透析患者5名と色々な透析を経験する事が出来ます。 またシャント手術が年間30例、シャントPTAが年間195例ありますので、それらの手技の取得も可能です。 折角のご縁ですから、一緒に学んで行きましょう！
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 3名、同 総合専門医 5名、日本腎臓学会専門医 3名、日本腎臓学会腎臓指導医 1名、日本透析医学会透析専門医 4名、日本透析医学会専指導医 1名、日本糖尿病学会専門医 2名、日本血液学会血液専門医 1名
外来・入院患者数	外来患者 5,510名(1ヶ月平均) 入院患者 91名(1日平均)
病床	129床〈医療一般病床 51床 医療療養病床 78床〉
経験できる疾患群	・糖尿病患者、慢性腎臓病患者、血液透析療法中の患者、高齢者・慢性長期療養患者の診療を通じて、内科領域疾患を広く経験することになります。

	・複数の疾患を併せ持つ高齢者の治療・全身管理・療養方針の考え方についても学ぶことができます。
経験できる技術・技能	・糖尿病患者の血糖管理・食事療法の教育、慢性腎臓病患者の治療、血液透析患者に対する透析療法、バスキュラーアクセスの作成、高齢者診療の枠組みの中で、内科専攻医に必要な診察や技術・技能を経験できます。 ・生活習慣病診療を中心とした内科外来としての日常診療、リスク因子管理が経験できます。
経験できる地域医療・診療連携	患者の在宅復帰や退院後の療養環境の決定とその実現に向け、地域連携課や現場のスタッフとともに多職種による決定・実施のプロセスを経験できます。同時に他施設とのかかわり、地域医療の実際を経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本腎臓学会専門医制度教育施設 日本糖尿病学会専門医制度教育施設 日本透析医学会教育施設

浜の町病院

衛藤 徹也	(プログラム統括責任者, 委員長, 内科統括部長、血液分野責任者)
吉澤 誠司	(副院長, リウマチ膠原病分野責任者)
臼井 真	(救急分野責任者, 事務局代表, JMECC ディレクター)
草場 仁志	(腫瘍分野責任者)
前山 隆茂	(呼吸器分野責任者)
堀内 俊博	(内分泌・代謝分野責任者)
佐竹 真理恵	(神経内科分野責任者)
吉田 鉄彦	(腎臓分野責任者)
増田 征剛	(循環器分野責任者)
山縣 元	(消化器分野責任者)
具嶋 敏文	(肝胆膵分野責任者)
隅田 幸佑	(感染症分野責任者、総合診療分野責任者)
原 陽子	(事務局代表, 事務担当)

連携施設担当委員

九州大学病院	桑原 綾子
九州大学別府病院	甲木 雅人
小倉医療センター	佐藤 丈顕
製鉄記念八幡病院	荒川 修治
九州がんセンター	杉本 理恵
福岡赤十字病院	大坪 俊夫
済生会福岡総合病院	落合 利彰
JCHO 九州病院	原田 大志
北九州市立医療センター	大野 裕樹
聖マリア病院	田代 英樹
九州中央病院	竹迫 仁則
福岡東医療センター	黒岩 三佳
九州医療センター	宮村 知也
飯塚病院	小田 浩之
唐津赤十字病院	宮原 正晴
山口赤十字病院	末兼 浩史
原三信病院	古藤 和浩
福岡山王病院	徳松 誠
福岡市民病院	東 秀史
松山赤十字病院	藤崎 智明
下関市立市民病院	金子 武生
大分県立病院	柴富 和貴

宮崎県立宮崎病院	眞柴 晃一
門司掖済会病院	藤井 健一郎
別府医療センター	鶴田 悟
九州労災病院	田中 誠一
福岡和白病院	有田 武史
福岡病院	平本 哲哉
白十字病院	岩瀬 正典
千早病院	原田 直樹
仲原病院	大神 吉光
大牟田病院	川崎 雅之
特別連携施設担当委員	
西福岡病院	渡邊 憲太郎
福岡ゆたか中央病院	松本 高宏
前田病院	前田 篤宏
オブザーバー	
内科専攻医代表	

浜の町病院内科専門研修プログラム 専攻医研修マニュアル

1) 専門研修後の医師像と修了後に想定される勤務形態や勤務先

内科専門医の使命は、(1)高い倫理観を持ち、(2)最新の標準的医療を実践し、(3)安全な医療を心がけ、(4)プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を展開することです。内科専門医のかかわる場は多岐にわたるが、それぞれの場に応じて、

- ① 地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）
- ② 内科系救急医療の専門医
- ③ 病院での総合内科（Generality）の専門医
- ④ 総合内科的視点を持った Subspecialist

に合致した役割を果たし、地域住民、国民の信頼を獲得します。それぞれのキャリア形成やライフステージ、あるいは医療環境によって、求められる内科専門医像は単一でなく、その環境に応じて役割を果たすことができる、必要に応じた可塑性のある幅広い内科専門医を多く輩出することにあります。

浜の町病院内科専門研修施設群での研修終了後はその成果として、内科医としてのプロフェッショナリズムの涵養と General なマインドを持ち、それぞれのキャリア形成やライフステージによって、これらいずれかの形態に合致することもあれば、同時に兼ねることも可能な人材を育成します。そして、

福岡県福岡・糸島医療圏に限定せず、超高齢社会を迎えた日本のいずれの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を獲得していることを要します。また、希望者は Subspecialty 領域専門医の研修や高度・先進的医療、大学院などでの研究を開始する準備を整えうる経験をできることも、本施設群での研修が果たすべき成果です。

浜の町病院内科専門研修プログラム終了後には、浜の町病院内科施設群専門研修施設群（下記）だけでなく、専攻医の希望に応じた医療機関で常勤内科医師として勤務する、または希望する大学院などで研究者として働くことも可能です。

2) 専門研修の期間

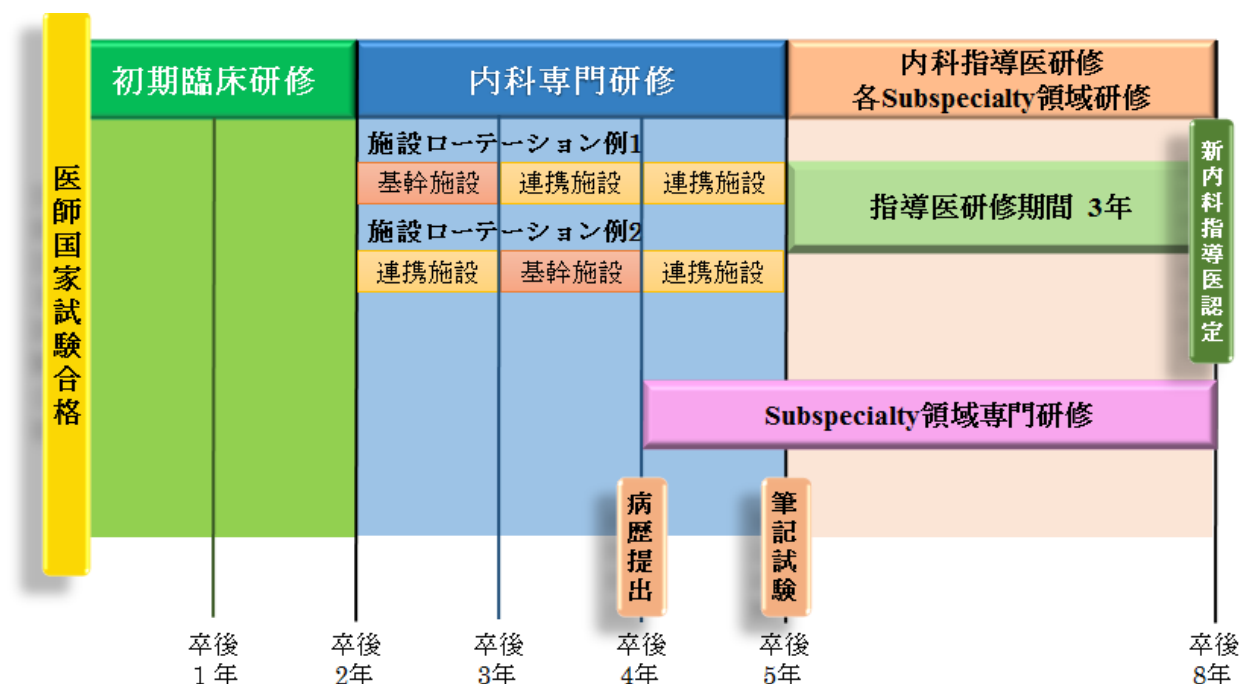


図1：浜の町病院病院内科専門研修プログラム(概念図)

基幹施設である浜の町病院内科で、専門研修（専攻医）1年目または2年目に1年間の専門研修を行います。

3) 研修施設群の各施設名（P. 17「浜の町病院研修施設群」参照）

基幹施設： 国家公務員共済組合連合会浜の町病院

連携施設： 九州大学病院，九州大学別府病院，小倉医療センター，製鉄記念八幡病院，九州がんセンター，福岡赤十字病院，済生会福岡総合病院，JCHO 九州病院，北九州市立医療センター，聖マリア病院，九州中央病院，福岡東医療センター，九州医療センター，飯塚病院，唐津赤十字病院，山口赤十字病院，原三信病院，福岡山王病院，福岡市民病院，松山赤十字病院，下関市立市民病院，大分県立病院，宮崎県立宮崎病院，門司掖済会病院，別府医療センター，九州労災病院，福岡和白病院，福岡病院，白十字病院，千早病院，仲原病院，大牟田病院

特別連携施設： 西福岡病院，福岡ゆたか中央病院，前田病院

プログラムに関わる委員会と委員，および指導医名

浜の町病院内科専門研修プログラム管理委員会と委員名（P. 77「浜の町病院内科専門研修プログラム管理委員会」参照）

4) 各施設での研修内容と期間

専攻医 2 年目の秋に専攻医の希望・将来像，研修達成度およびメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）などを基に，専門研修（専攻医）3 年目の研修施設を調整し決定します。病歴提出を終える専門研修（専攻医）3 年目の 1 年間，連携施設で研修をします（図 1）。

5) 本整備基準とカリキュラムに示す疾患群のうち主要な疾患の年間診療件数

基幹施設である浜の町病院診療科別診療実績を以下の表に示します。浜の町病院は地域基幹病院であり、コモンディジーズを中心に診療しています。

2024 年実績	入院患者実数	延患者数 (延人数/
消化器・肝胆膵内科	950	7,859
循環器内科	441	4,653
内分泌代謝内科	217	2,579
腎臓内科	146	2,355
呼吸器内科	706	9,904
神経内科	217	3,994
血液内科	957	21,792
リウマチ膠原病内科	249	3,258
腫瘍内科	1,311	9,237
救急科	582	810
総診・感染症内科	295	5,926

- * 各領域に十分な症例数があります。内分泌領域の入院患者は少なめですが、外来患者診療を含め、1 学年 4 名に対し十分な症例を経験可能です。
- * 13 領域の専門医が少なくとも 1 名以上在籍しています（P. 17「浜の町病院内科専門研修施設群」参照）。
- * 剖検体数は 2022 年度 6 件、2023 年度 5 件、2024 年度 1 件です。

6) 年次ごとの症例経験到達目標を達成するための具体的な研修の目安

Subspecialty 領域に拘泥せず、内科として入院患者を順次主担当医として担当します。主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。

入院患者担当の目安（基幹施設：浜の町病院での一例）

当該月に以下の主たる病態を示す入院患者を主担当医として退院するまで受持ちます。

専攻医 1 人あたりの受持ち患者数は、受持ち患者の重症度などを加味して、担当指導医、Subspecialty 上級医の判断で 5～10 名程度を受持ちます。感染症、総合内科、救急分野は、適宜、領域横断的に受持ちます。

	専攻医 1 年目
4 月 5 月	消化管・肝胆膵
6 月 7 月	腫瘍、総合診療
8 月 9 月	血液
10 月	腎・膠原病
11 月	神経・内分泌代謝
12 月 1 月	呼吸器
2 月 3 月	循環器

* 1 年目の 4－5 月に消化器領域で入院した患者を退院するまで主担当医として診療にあたります。6 月には退院していない消化器領域の患者とともに腫瘍内科領域で入院した患者を退院するまで主担当医として診療にあたります。これを繰り返して内科領域の患者を分け隔てなく、主担当医として診療します。

7) 自己評価と指導医評価、ならびに 360 度評価を行う時期とフィードバックの時期

毎年 8 月と 2 月とに自己評価と指導医評価、ならびに 360 度評価を行います。必要に応じて臨時に行うことがあります。

評価終了後、1 か月以内に担当指導医からのフィードバックを受け、その後の改善を期して最善をつくします。2 回目以降は、以前の評価についての省察と改善とが図られたか否かを含めて、担当指導医からのフィードバックを受け、さらに改善するように最善をつくします。

8) プログラム修了の基準

① 日本内科学会専攻医登録評価システムを用いて、以下の i)～vi) の修了要件を満たすこと。

i) 主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し、計 200 症例以上（外来症例は 12 症例まで含むことができます）を経験することを目標とします。その研修内容を日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録します。修了認定には、主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 120 症例（2023 年度以前登録専攻医は 160 症例）以上の症例（外来症例は登録症例の 1 割まで含むことができます）を経験し、登録済みです（P.88 別表 1「内科専門研修修了要件（「症例数」、「疾患群」、「病歴要約」参照）。

ii) 29 病歴要約の内科専門医ボードによる査読・形成的評価後に受理（アクセプト）されています。

iii) 学会発表あるいは論文発表を筆頭者で 2 件以上あります。

iv) JMECC 受講歴が 1 回あります。

- v) 医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習会を年に 2 回以上受講歴があります。
- vi) 日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いてメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）と指導医による内科専攻医評価を参照し、社会人である医師としての適性があると認められます。

- ② 当該専攻医が上記修了要件を充足していることを浜の町病院内科専門医研修プログラム管理委員会は確認し、研修期間修了約 1 か月前に浜の町病院内科専門医研修プログラム管理委員会で合議のうえ統括責任者が修了判定を行います。

〈注意〉「研修カリキュラム項目表」の知識、技術・技能修得は必要不可欠なものであり、修得するまでの最短期間は 3 年間（基幹施設 1 年間＋連携 2 年間）とするが、修得が不十分な場合、修得できるまで研修期間を 1 年単位で延長することがあります。

9) 専門医申請にむけての手順

① 必要な書類

- i) 日本専門医機構が定める内科専門医認定申請書
- ii) 履歴書
- iii) 浜の町病院内科専門医研修プログラム修了証（コピー）

② 提出方法

内科専門医資格を申請する年度の 5 月末日までに日本専門医機構内科領域認定委員会に提出します。

③ 内科専門医試験

内科専門医資格申請後に日本専門医機構が実施する「内科専門医試験」に合格することで、日本専門医機構が認定する「内科専門医」となります。

10) プログラムにおける待遇、ならびに各施設における待遇

在籍する研修施設での待遇については、各研修施設での待遇基準に従う（P. 17「浜の町病院研修施設群」参照）。

11) プログラムの特色

- ① 本プログラムは、福岡県福岡・糸島医療圏の中心的な急性期病院である浜の町病院を基幹施設として、福岡県福岡・糸島医療圏、近隣医療圏および山口、宮崎、松山にある連携施設とで内科専門研修を経て超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し、必要に応じた可塑性のある、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練されます。研修期間は基幹施設 1 年間＋連携施設 2 年間の合計 3 年間です。
- ② 浜の町病院内科施設群専門研修では、症例をある時点で経験するというだけでなく、主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。そして、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標への到達とします。
- ③ 基幹施設である浜の町病院は、福岡県福岡・糸島医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核です。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。

- ④ 基幹施設である浜の町病院での2年間（専攻医2年修了時）で、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた70疾患群のうち、少なくとも通算で45疾患群、80症例以上を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システムに登録できます。そして、専攻医2年修了時点で、指導医による形成的な指導を通じて、内科専門医ボードによる評価に合格できる29症例の病歴要約を作成できます（P.88 別表1「内科専門研修修了要件（「症例数」、「疾患群」、「病歴要約」参照）。
- ⑤ 浜の町病院内科研修施設群の各医療機関が地域においてどのような役割を果たしているかを体験するために、専門研修3年目の1年間、立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことによって、内科専門医に求められる役割を実践します。
- ⑥ 基幹施設である浜の町病院での2年間と専門研修施設群での1年間（専攻医3年修了時）で、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた70疾患群、200症例以上の主担当医としての診療経験を目標とします（P.88 別表1「内科専門研修修了要件（「症例数」、「疾患群」、「病歴要約」参照）。少なくとも通算で56疾患群、120症例以上を主担当医として経験し、日本内科学会専攻医登録評価システムに登録します。
- 12) 継続した Subspecialty 領域の研修の可否
- ・カリキュラムの知識、技術・技能を深めるために、総合内科外来（初診を含む）、Subspecialty 診療科外来（初診を含む）、Subspecialty 診療科検査を担当します。結果として、Subspecialty 領域の研修につながることはあります。
 - ・カリキュラムの知識、技術・技能を修得したと認められた専攻医には積極的に Subspecialty 領域専門医取得に向けた知識、技術・技能研修を開始させます。
- 13) 逆評価の方法とプログラム改良姿勢
- 専攻医は日本内科学会専攻医登録評価システムを用いて無記名式逆評価を行います。逆評価は毎年8月と2月とに行います。その集計結果は担当指導医、施設の研修委員会、およびプログラム管理委員会が閲覧し、集計結果に基づき、浜の町病院内科専門研修プログラムや指導医、あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます。
- 14) 研修施設群内で何らかの問題が発生し、施設群内で解決が困難な場合の相談先
- 日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします。
- 15) その他
- 特になし。

浜の町病院内科専門研修プログラム 指導医マニュアル

- 1) 専攻医研修ガイドの記載内容に対応したプログラムにおいて期待される指導医の役割
 - ・ 1 人の担当指導医に専攻医 1 人が浜の町病院内科専門研修プログラム委員会により決定されます。
 - ・ 担当指導医は、専攻医が web にて日本内科学会専攻医登録評価システムにその研修内容を登録するので、その履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認をします。この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います。
 - ・ 担当指導医は、専攻医がそれぞれの年次で登録した疾患群、症例の内容について、都度、評価・承認します。
 - ・ 担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り、研修手帳 Web 版での専攻医による症例登録の評価や臨床研修センターからの報告などにより研修の進捗状況を把握します。専攻医は Subspecialty の上級医と面談し、専攻医が経験すべき症例について報告・相談します。担当指導医と Subspecialty の上級医は、専攻医が充足していないカテゴリー内の疾患を可能な範囲で経験できるよう、主担当医の割り振りを調整します。
 - ・ 担当指導医は Subspecialty 上級医と協議し、知識、技能の評価を行います。
 - ・ 担当指導医は専攻医が専門研修（専攻医）2 年修了時まで合計 29 症例の病歴要約を作成することを促進し、内科専門医ボードによる査読・評価で受理（アクセプト）されるように病歴要約について確認し、形成的な指導を行います。
- 2) 専門研修の期間
 - ・ 年次到達目標は、P. 88 別表 1「浜の町病院内科専門研修において求められる「疾患群」，「症例数」，「病歴提出数」について」に示すとおりです。
 - ・ 担当指導医は、臨床研修センターと協働して、3 か月ごとに研修手帳 Web 版にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し、専攻医による研修手帳 Web 版への記入を促します。また、各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
 - ・ 担当指導医は、臨床研修センターと協働して、6 か月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡し、専攻医による病歴要約の作成を促します。また、各カテゴリー内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
 - ・ 担当指導医は、臨床研修センターと協働して、6 か月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します。
 - ・ 担当指導医は、臨床研修センターと協働して、毎年 8 月と 2 月とに自己評価と指導医評価、ならびに 360 度評価を行います。評価終了後、1 か月以内に担当指導医は専攻医にフィードバックを行い、形成的に指導します。2 回目以降は、以前の評価についての省察と改善とが図られたか否かを含めて、担当指導医はフィードバックを形成的に行って、改善を促します。

3) 専門研修の期間

- ・ 担当指導医はSubspecialtyの上級医と十分なコミュニケーションを取り、研修手帳Web版での専攻医による症例登録の評価を行います。
- ・ 研修手帳Web版での専攻医による症例登録に基づいて、当該患者の電子カルテの記載、退院サマリ作成の内容などを吟味し、主担当医として適切な診療を行っているとは第三者が認めうると判断する場合に合格とし、担当指導医が承認を行います。
- ・ 主担当医として適切に診療を行っているとは認められない場合には不合格として、担当指導医は専攻医に研修手帳Web版での当該症例登録の削除、修正などを指導します。

4) 日本内科学会専攻医登録評価システムの利用方法

- ・ 専攻医による症例登録と担当指導医が合格とした際に承認します。
- ・ 担当指導医による専攻医の評価、メディカルスタッフによる360度評価および専攻医による逆評価などを専攻医に対する形成的フィードバックに用います。
- ・ 専攻医が作成し、担当指導医が校閲し適切と認めた病歴要約全29症例を専攻医が登録したものを担当指導医が承認します。
- ・ 専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約評価ボードによるピアレビューを受け、指摘事項に基づいた改訂を専攻医がアクセプトされるまでの状況を確認します。
- ・ 専攻医が登録した学会発表や論文発表の記録、出席を求められる講習会等の記録について、各専攻医の進捗状況をリアルタイムで把握します。担当指導医と臨床研修センターはその進捗状況を把握して年次ごとの到達目標に達しているか否かを判断します。
- ・ 担当指導医は、日本内科学会専攻医登録評価システムを用いて研修内容の評価し、修了要件を満たしているかを判断します。

5) 逆評価と日本内科学会専攻医登録評価システムを用いた指導医の指導状況把握

専攻医による日本内科学会専攻医登録評価システムを用いた無記名式逆評価の集計結果を、担当指導医、施設の研修委員会、およびプログラム管理委員会が閲覧します。集計結果に基づき、浜の町病院内科専門研修プログラムや指導医、あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます。

6) 指導に難渋する専攻医の扱い

必要に応じて、臨時（毎年8月と2月とに予定の他に）で、日本内科学会専攻医登録評価システムを用いて専攻医自身の自己評価、担当指導医による内科専攻医評価およびメディカルスタッフによる360度評価（内科専門研修評価）を行い、その結果を基に浜の町病院内科専門研修プログラム管理委員会で協議を行い、専攻医に対して形成的に適切な対応を試みます。状況によっては、担当指導医の変更や在籍する専門研修プログラムの異動勧告などを行います。

7) プログラムならびに各施設における指導医の待遇

浜の町病院給与規定によります。

8) FD講習の出席義務

厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨します。

指導者研修（FD）の実施記録として、日本内科学会専攻医登録評価システムを用います。

- 9) 日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」の活用
内科専攻医の指導にあたり，指導法の標準化のため，日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」を熟読し，形成的に指導します.
- 10) 研修施設群内で何らかの問題が発生し，施設群内で解決が困難な場合の相談先
日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします.
- 11) その他
特になし.

別表1 内科専門研修修了要件（「症例数」、「疾患群」、「病歴要約」）一覧

	内容	症例数	疾患群	病歴要約提出数
分野	総合内科Ⅰ（一般）	計10以上	1	2
	総合内科Ⅱ（高齢者）		1	
	総合内科Ⅲ（腫瘍）		1	
	消化器	10以上	5以上	3
	循環器	10以上	5以上	3
	内分泌	3以上	2以上	3
	代謝	10以上	3以上	
	腎臓	10以上	4以上	2
	呼吸器	10以上	4以上	3
	血液	3以上	2以上	2
	神経	10以上	5以上	2
	アレルギー	3以上	1以上	1
	膠原病	3以上	1以上	1
	感染症	8以上	2以上	2
	救急	10以上	4	2
	外科紹介症例	2以上		2
	剖検症例	1以上		1
	合計	120以上 (外来は最大12)	56 疾患群 (任意選択含む)	29 (外来は最大7)

補足

1. 目標設定と修了要件

以下に年次ごとの目標設定を掲げるが、目標はあくまで目安であるため必達ではなく、修了要件を満たせば問題ない。各プログラムでは専攻医の進捗、キャリア志向、ライフイベント等を踏まえ、研修計画は柔軟に取り組んでいただきたい。

	症例	疾患群	病歴要約
目標（研修終了時）	200	70	29
修了要件	120	56	29
専攻医2年修了時 目安	80	45	20
専攻医1年修了時 目安	40	20	10

- 疾患群：修了要件に示した領域の合計数は41疾患群であるが、他に異なる15疾患群の経験を加えて、合計56疾患群以上の経験とする。
- 病歴要約：病歴要約は全て異なる疾患群での提出が必要。ただし、外科紹介症例、剖検症例については、疾患群の重複を認める。
- 各領域について
 - 総合内科：病歴要約は「総合内科Ⅰ（一般）」、「総合内科Ⅱ（高齢者）」、「総合内科（腫瘍）」の異なる領域から1例ずつ計2例提出する。
 - 消化器：疾患群の経験と病歴要約の提出それぞれにおいて「消化管」、「肝臓」、「胆・膵」が含まれること。
 - 内分泌と代謝：それぞれ1症例ずつ以上の病歴要約を提出する。
例）「内分泌」2例＋「代謝」1例、「内分泌」1例＋「代謝」2例
- 臨床研修時の症例について：例外的に各プログラムの委員会が認める内容に限り、その登録が認められる。登録は最大60症例を上限とし、病歴要約への適用については最大14症例を上限とする。

別表 2
浜の町病院内科専門研修週間スケジュール 消化器・肝胆膵内科（例）

	月	火	水	木	金	土・日
	モーニングカンファレンス					
午前	病棟診療 研修医指導	消化器 内視鏡	総合診療 外来	病棟診療 研修医指導	腹部 超音波	週末日直 (1回/月) 担当患者の 病態に応じ た診療 オンコール 講習会 学会参加
午後	病棟診療 内視鏡治療 RFA (介助)	病棟診療 研修医指導	救急診療	病棟診療 内視鏡治療 RFA (介助)	病棟診療 研修医指導	
	内視鏡 カンファレ ンス	内科 カンファレ ンス	肝臓内科 カンファレ ンス	内視鏡 カンファレ ンス	病棟診療	
	当直(1回/1～2週)					

- ★ 浜の町病院内科専門研修プログラム 4. 専門知識・専門技能の習得計画 に従い、内科専門研修を実践します。
- ・ 上記はあくまでも例：概略です。
 - ・ 内科および各診療科（Subspecialty）のバランスにより、担当する業務の曜日、時間帯は調整・変更されます。
 - ・ 入院患者診療には、内科と各診療科（Subspecialty）などの入院患者の診療を含みます。
 - ・ 日当直やオンコールなどは、内科もしくは各診療科（Subspecialty）の当番として担当します。
 - ・ 地域参加型カンファレンス、講習会、CPC、学会などは各々の開催日に参加します。

2025 年 4 月 1 日